



MSC年次報告書2015年度

持続可能な漁業から消費者まで



世界の海が生命にあふれ、
現在と将来の世代にわたって
水産物の供給が確保されること、
これが私たちのビジョンです。

目次

ごあいさつ	4	拡大する市場	24
2015年度のあゆみ	5	リドルが起こす新しい波	25
海から食卓まで	6	イギリスのトップは依然としてセインズベリー	25
持続的な進展	8	カンタブリアとの協働	26
環境へのインパクト	10	カルフルが開く新たな航路	27
再認証：長期的な展望	12	コールスの大々的な取り組み	28
「初」となった漁業	13	1億を超えるMSC認証ツナ缶	29
国の誇り	14	フォーカス：アジア太平洋地域と中国	30
国境を越えた協力	15	持続可能な水産物を提供	32
カツオ・マグロ グローバルな水産資源	16	消費者への働きかけ	34
すべての漁業が参加できるプログラムに	18	選ぼう「海のエコラベル」	36
強固な認証サプライチェーン	20	消費者の意識を把握	38
持続可能性をDNA検査で検証	22	消費者の声	40
		財源と資金援助	41
		資金援助	42
		決算報告 2015年度	43
		ガバナンス	44

ごあいさつ

昨年9月、各国首脳により「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が正式に採択されました。その中核を成すのが、飢餓の撲滅、栄養状態の改善、働きがいのある人間らしい仕事と経済成長の推進、海洋生態系の保護をはじめとする17の開発目標であり、2030年までにすべての国がこれを目指すことになりました。

MSCは、海の持続可能性を推進することにより、長期的な食糧安全保障の改善、人々の暮らしの維持と向上、そして未来にわたって健全な海を確実に守っていくための世界的な取り組みに寄与しています。MSCがパートナーとともにこの1年間で実現してきたことを振り返ってみますと、科学に基づいた認証とエコラベルのプログラムが、いかに効果的かつ現実的な解決策を提供しているのかが、より一層明確になりました。

MSC『2016環境インパクト報告書』には、水産資源の増加と安定、混獲と生態系への影響の軽減、科学的根拠に基づいた一層適切な管理など、MSC認証の取得による実質的な改善について詳細に記されています。MSCプログラムに参加する漁業が増えれば増えるほど、こういった改

善がより一層推進されることとなります。2015-2016年度においては、新たに38の漁業が認証を取得しました。MSCの厳格な環境規準を満たす持続可能な漁業による水揚げ量は、現在では世界の天然漁獲物の10%を占めるまでになり、北東大西洋では40%強、北東太平洋では83%にまで達しています。

MSCプログラムは、最優良事例を実証するためのメカニズムを提供するとともに、革新的で優れた漁業管理を世界各国で奨励し、また変化と改善を推進しています。しかし実質的な変革は、多くのパートナーの指導力と行動力の賜物なのです。大小さまざまな漁業パートナーらによる操業の改善、貿易および加工事業者による持続可能なサプライチェーンの構築、そして小売企業およびブランドによる持続可能な調達への取り組みがこれに含まれます。また、多くの海洋学者およびNGOからも積極的に関わっていただき、その見識を惜しみなく共有していただいています。さらに、消費者の方々は、持続可能な水産物を選択することによって、MSCのプログラムを支えてくださっています。今年の年次報告書では、持続可能な水産物が水揚げされてから食卓に並ぶ

「MSCは、海の持続可能性を推進することにより、長期的な食糧の安全保障の改善、人々の暮らしの維持と向上、そして未来にわたって健全な海を確実に守っていくための世界的な取り組みに寄与しています。」



での道程をたどりながら、様々なパートナーをご紹介させていただいています。

これまでに多くの成果をあげることができましたが、今後も取り組んでいくべきことはまだまだあります。現在は、2017年から2020年までの中期計画を立てており、小規模漁業や開発途上国の漁業が、MSCプログラムにより参加しやすくなるような新しいツールやアプローチの策定を目指しています。これには、MSC認証に向け必要な改善を実施中の漁業のための、正式な枠組みの開発も含まれています。また、MSC認証漁業およびサプライチェーン事業者の労働慣行が国際規範に則っていることを、より確実に保証するための方法をパートナーとともに検討していきます。

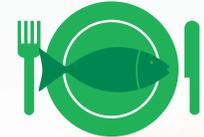
同時に、MSC認証が今後も水産業界において価値あるものであり続けるために、MSCの認証審査の厳格性および信頼性を損なうことなく、効率化、円滑化を図っていきたく考えています。新たな中期計画では消費者の意識向上にも注力し、独立した第三者機関によって認証された持続可能な水産物への理解を促し、それらを選ん

でいただけるように取り組んでまいります。

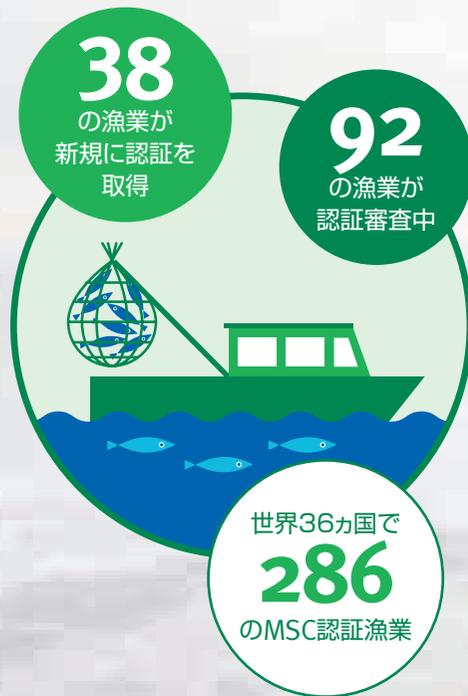
これまでの成果、そして今後の成功は、多くの卓越した人材の熱意と尽力に支えられています。この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。MSC評議員会、ステークホルダー協議会、そして技術諮問委員会の皆様からのご指導とご助言をいただきながら、MSCはこれからも海の持続可能性を推進してまいります。また、世界各国のMSCチームやパートナー、支援者の皆様にも、改めて感謝を申し上げたいと思います。その献身的な取り組みによって、北極海から西太平洋の隅々にまで変革の波が押し寄せています。最後になりましたが、MSCのビジョンを共有して下さっている資金提供者の皆様、並びに慈善活動パートナーの方々に心より感謝申し上げます。

最高責任者 ルパート・ハウス

2015年度のあゆみ



持続可能な漁業から…



…消費者まで

海から食卓まで

水産物は、私たち人間にとって大切な栄養源であり、生きる糧でもあります。時に水産資源とその生態系が地域全体を支えています。

水産物はこれからも必要とされますが、水産資源は無限ではありません。将来、十分な資源があるかどうかは、現在の私たちにかかっています。

世界の水産資源の持続可能性を確保し、長く安定的に水産物を供給することは、これからの未来のために不可欠です。そのために設立されたのがMSCであり、この目的が私たちの活動のすべての原動力となっています。MSC年次報告書2015年度では、MSCのパートナーの努力と取り組みによって、どれほど多くの目標を達成できたか、そしてこの1年の主な成果をご紹介します。

持続可能性というものは、海から食卓までをつなぐ鎖でできています。その鎖が強固であるためには、1つ1つの環が頑丈でなければなりません。水産物は漁獲、競売、加工、製品化、販売とい

った環を経て、購入、消費されます。その各段階に専門家が携わり、持てる限りの知識を使って、前向きな変革を推進し、良識ある行動を報奨しています。

しかし実際に変革を起こしているのは、南太平洋のマグロ漁から北極海のタラ漁まで、持続可能な漁業に取り組む漁業者たちであり、追跡可能で持続可能な水産物を、熱意を持って供給する先駆的な事業者たちであり、持続可能な水産物を選択することでその意義を広めることに貢献している、水産物を愛する人々なのです。MSCは変革を起こすメカニズムを提供することはできませんが、それを実現するのはこうした多種多様な人々による協働の力なのです。

この報告書では、そうした人々の一部をご紹介します。



MSCは、持続可能でない漁業の問題に対処し、将来にわたる水産資源の保護に取り組むために設立された国際的な非営利団体です。

漁業認証及び水産物のエコラベルプログラムを通じて持続可能な漁業を奨励し、市場に変革を起こすために、パートナーとともに取り組んでいます。

20年間に及ぶ責任ある行動

国連食糧農業機関(FAO)の「責任ある漁業のための行動規範」が採択されてから20年が経ちました。漁業管理の最優良事例に関して初めてグローバル・コンセンサスを得たことにより、水産物資源に対する持続可能性を軸とした、自主的なグローバル・アプローチを取るための基盤が確立されたのです。

MSCが誕生したのは、FAOの行動規範が採択されてから2年後のことでした。MSCの漁業規準は、この「責任ある漁業のための行動規範」に基づいており、現在も私たちの理念の根底を成し

ています。MSCはFAOの行動規範によって定められた原則を用いて、責任ある漁業を実証するためのメカニズムを漁業者に提供しています。

「『漁業を管理する方法に世界が合意したのだから、それを実行しよう!』と言って声をあげたのがMSCなのです。」

MSC科学・規準ディレクター
デビッド・アグニュー



インドのアシュタムディMSC認証アサリ漁業の漁業者とアグニュー (右)

海から食卓、そしてスマートフォンへ

MSCが最も力を入れている活動の1つが、消費者への啓発活動と持続可能な漁業への認識の向上です。高級レストランでグルメなシーフード料理に舌鼓を打つにせよ、子どもたちのいつもの夕食に冷凍の魚フライを買って帰るにせよ、持続可能な漁業がいかに大切なもので、MSC「海のエコラベル」のついた製品を選ぶことがそうした漁業の支援につながるのだ、ということ消費者に理解してもらうために、私たちは活動しています。

2016年3月、MSCは世界のパートナーとともに、海から食卓までのトレーサビリティの重要性と、MSC「海のエコラベル」がいかにしてそのトレーサビリティを確実なものにしているかを紹介する統合型キャンペーンを展開し、複数のメディアに取り上げられました。例えばYoutube。MSC「海のエコラベル」を説明する

1分弱の動画を12カ国語に翻訳してアップロードしたところ、既に100万回以上再生され、ハフントン・ポスト紙からシドニー・モーニング・ヘラルド紙まで、各種紙面を通じて拡散されています。グローバル市場を拡大することによって、私たちは消費者やパートナーたちに、持続可能な漁業に取り組む漁業者を奨励する機会を提供しているのです。

「『海のエコラベル』のついた魚は、責任ある漁業によって獲られ、その後も大切に扱われています。さらに、持続可能な漁業にまで遡って追跡することができます。」

MSC動画、YouTube



動画は[msc.org/otp](https://www.msc.org/otp)でご覧いただけます。

持続的な進展



「持続可能な漁業への取り組みは非常に重要です。私はこれからも漁業者として、この産業を次世代に引き継ぎたいと考えています。漁業は我々のなりわいですから、適切な量の漁獲を行うことが大事です。」

アイスランドのMSC認証マダラ・リング漁業
漁船ジョアンナ・ギスラドッティル号の船長
オルファー・オスカーソン氏

健全な海と持続可能な漁業を目指す取り組みが加速しています。これまでにない数の漁業がMSCプログラムに参加し、海を守るために必要な改善に取り組んでいます。

2015年度は、海から食卓に至るまでの各段階において、多くの進展が見られました。主要な漁業の再認証をはじめとした業績の拡大にとどまらず、新たな試みにも挑戦しました。太平洋マグロやニューファンドランド島のマダラなど大規模漁業の認証取得を重視すると同時に、小規

模漁業や開発途上国の漁業が更に参加しやすいプログラムを作るために努力を重ねました。こうした取り組みは、漁業を糧とする人々の生活の安定や、重要なタンパク源の持続可能性の確保に向けて大きく貢献することでしょう。

MSC認証漁業について詳しくは
msc.org/stories をご覧ください。

全世界の漁獲量の
10%
がMSC認証*

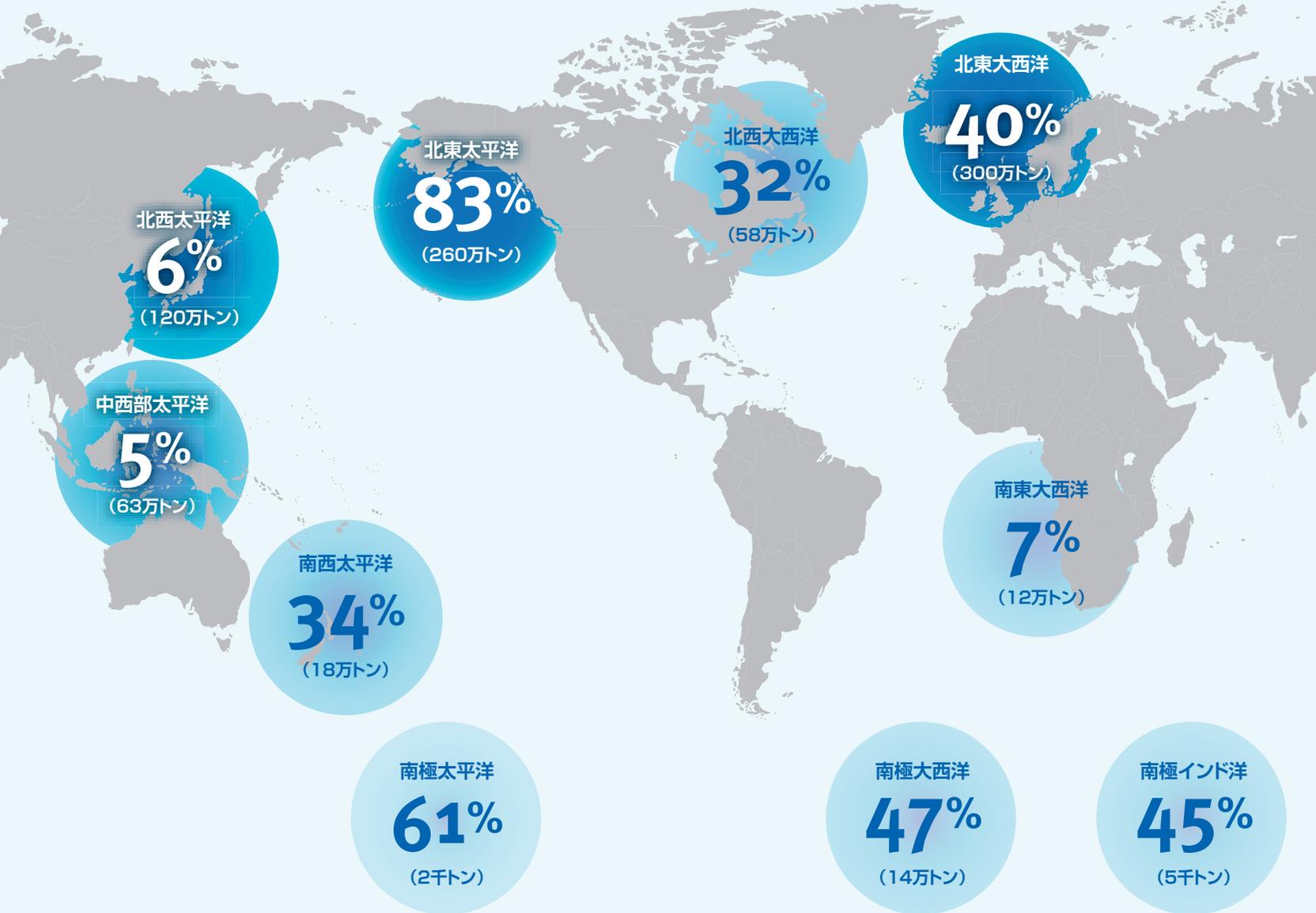
36カ国で
286
の漁業が認証を取得

2015年度は新たに
38 の漁業
が認証を取得し、
92の漁業が審査中

MSC認証の漁獲物は
前年度末と比べて
6%
増

MSC認証水産物の
総重量は
930
万トン

総水揚げ量に占めるMSC認証水産物の割合が大きい海域トップ10*



認証魚種グループトップ5**

ホタテガイとイタヤガイ



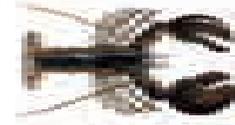
64%

マダラ、ヘイク、ハドック



55%

ロブスターとイセエビ



46%

オキアミと浮遊性甲殻類



43%

サケ、マス、スメルト類(アユ、シシャモ、ワカサギなど)



38%

* 国連食糧農業機関 (FAO) の定める主要な漁獲統計海区の総水揚げ量に占めるMSC認証漁獲量の割合と重量 (国連FAO 2014)

** 国連FAOの水棲動物国際標準統計分類 (ISSCAAP) による各魚種グループの総漁獲量に占めるMSC認証漁獲量の割合

環境へのインパクト

「MSC認証漁業は、水産資源の持続可能な管理に向けた、科学的根拠に基づく革新的な取り組みを推進しています。こうした取り組みにより、世界の水産資源および海洋生態系の保護が着実に、そして長期的に進められています。」

MSC科学・規準ディレクター
デビッド・アグニュー

世界各地のMSC認証漁業は、世界で最も厳格な規準に則って操業しており、その多くが更なる改善のために日々取り組んでいます。水揚げ量の増加、持続可能な漁獲、混獲および海鳥の死亡率の削減などはMSCの『2016年環境インパクト報告書』で紹介されている成果のほんの一部に過ぎません。この報告書では、この5年間におけるMSC認証漁業の取り組みの進捗状況を定量分析した結果、どれほどの改善がなされたのかを紹介しています。

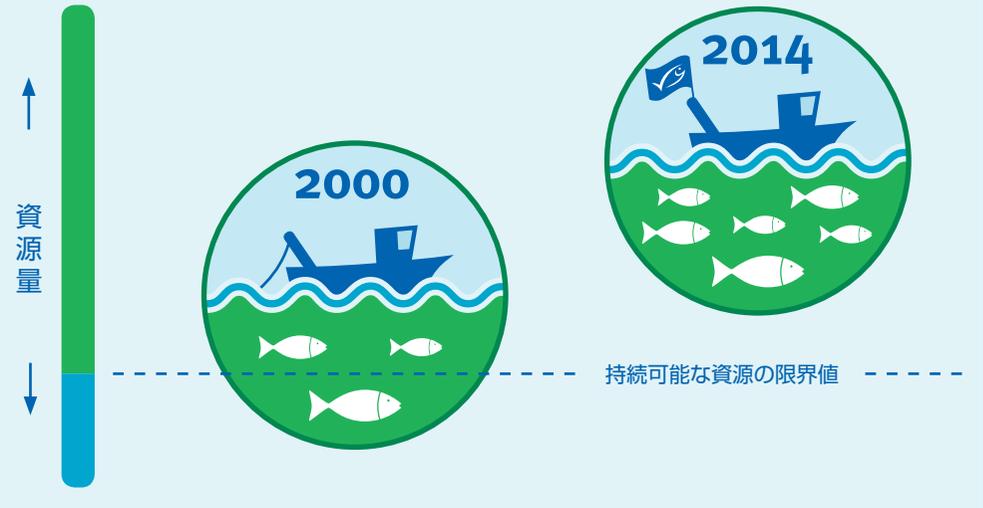
MSC認証を取得した漁業は、その後もより賢明で精選された漁法を推進し、海洋環境への科学的な理解を更に深めています。そうしたMSC認証を維持するための惜しみない努力と革新、そして投資が、『2016年環境インパクト報告書』

を通して見えてきます。

このような取り組みによって、MSC認証漁業の資源状態は回復、改善しています。例えば、過去14年間における北ヨーロッパの水産資源データでは、MSC認証漁業の対象資源量が認証取得前に比べてより豊かな状態にあり、さらに持続可能な漁獲率が維持されている現状が明らかになっています。これに対して、認証されていないヨーロッパの水産資源は、資源量や漁獲圧の変動がより大きく、資源の生産性を維持するには平均的に漁獲圧が大き過ぎることがデータで示されています。

同様のことは世界各地で起きています。エルセビア社発行のFisheries Research誌は、MSC

北ヨーロッパのMSC認証漁業の対象資源は、認証取得前よりも増加



認証の取得が南アフリカのヘイク漁業に及ぼした経済効果の分析結果を発表しました。それによれば、もし認証取得前の状態に逆戻りした場合、5年間で37.6%の経済的損失、5,000人から12,000人の失業が見込まれるとしています。

認証取得の条件として改善が求められる漁業も多く、過去5年間で数百にも及ぶ改善措置が完了しています。英仏海峡におけるロブスターの個体群データ収集方法を改善する新たな研究から、南氷洋での海鳥の保護やゴーストフィッシングの削減対策まで、MSCは有益な変化を引き起こしています。

詳しくは msc.org/global-impacts をご覧ください。

94% の認証漁業は認証を維持するために、少なくとも1つの改善措置を実施することが求められている。

281の漁業がこれまでに
876 の改善措置を完了し、更なる改善に取り組んでいる。



英仏海峡

漁業：コタントン半島とジャージー島のロブスター漁業

目標：ロブスターを大きくし、繁殖可能な個体数及び繁殖期間を増やす。資源量が減少した場合の明確な対策の策定

行動計画：水産資源を効果的に管理するため、漁業データの向上に注力

結果：資源量の増加と、予定よりも早い進捗

「私たちはこれまでも持続可能な漁業に取り組んできましたが、MSC認証を取得するにあたり、漁獲方策を整合化し、より明確にすることができました。」

バス＝ノルマンディー地域 甲殻類部門の副委員長
エリック・ルグリネル氏



飛行中のオオハイロミズナギドリ ©マーティン・ヘイル / Arhive

南氷洋

漁業：南インド洋ケルゲレン諸島の冷凍はえ縄漁業協同組合連合協議会 (SARPC)によるメロ漁業

目的：海鳥、特にオオハイロミズナギドリのはえ縄漁による死亡を削減

行動計画：はえ縄を重くしてより早く沈むようにするとともに、色を目立ちにくい白色にする。鳥が潜水するのを抑止するトリラインの導入。水揚げ地点に鳥除け装置を設置。オオハイロミズナギドリの繁殖期は禁漁とする。

結果：海鳥の死亡率の大幅な削減。2014年度に報告されたオオハイロミズナギドリの死亡数はわずか3羽。個体群はもはや危機に瀕していない。

「南極海の漁業によって死亡する海鳥の数は激減しました。MSC認証を取得し、海鳥の混獲を削減するための最優良事例を目指した私たちの改善に向けた取り組みが、認められました。」

SARPC会長 ジャンピエール・キヌ氏

再認証：長期的な展望

「5年間の認証の有効期限を迎えるにあたり、ためらうことなく再認証審査を受けることにしました。多くの国々の消費者は『海のエコラベル』のことを知っていますから、MSC認証は私たちにとって重要なマーケティングツールとなっています。」

ノルウェー漁業者組合会長 ケル・インゲブリグトセン氏

ノルウェーが示す道筋

新たな認証漁業が誕生すると、将来への希望が持てます。そして、長期におよぶ進展の証となっているのが漁業の再認証です。2015年には南アフリカのヘイク漁業と南極オキアミ漁業の2大漁業が再認証されただけでなく、世界最大規模を誇るノルウェーの北東北極海マダラとハドック漁業が再認証を果たしました。両魚種ともにノルウェーの地域経済にとって不可欠な資源であり（ノルウェーのGDPに占める水産物の取引高は70億米ドルで、漁業は5万人の雇用を担っています）、ノルウェー伝統の代表的漁業でもあります。本漁業の製品が世界中に出荷されていることは、その優れた漁業管理の証です。

しかし、持続可能な漁業への取り組みが止まることはありません。長年にわたる適切な管理のみに甘んじることなく、ノルウェーによる北東北極海での漁業は、持続可能性の更なる強化に向け、混獲の削減をはじめとする各種手段に新たに取り組むことになりました。本漁業のトロール漁船は、脆弱な生息域への影響を避けるため、予め決められたエリアに限って操業をするといった斬新な取り組みを通して、バレンツ海の海底保護における重要な役割を担っています。

アラスカの漁獲割当量が増加

2015年には北極海において更なる進展が見られました。アメリカ最大規模の漁業であり、世界最大の持続可能な認証漁業であるアラスカのスケトウダラ漁業が再度認証されたのです。2回目の再認証を果たした漁業としては、世界で10番目となりました。

この偉業によって、資源保護が長期生産性の向上につながるが見事に実証されました。今回の認証審査では、複数の採点項目の業績指標において歴代最高得点を記録し、年間水揚げ量も100万トンを超えるまでになりました。2015年には漁獲割当量の増加が認められましたが、それでも十分に持続可能なレベルです。

「初」となった漁業

2015年度にはMSCの取り組みを更に拡大し、各地の主要な漁業が「初」のMSC認証を取得しました。



スペインでは…

アストゥリアス州漁業組合のタコ漁は数世紀の歴史を誇る伝統漁業です。昔ながらの漁法はほぼそのままの形で継承されてきましたが、数ヶ月に及ぶ努力の結果、その伝統漁法によって健全な資源量が維持され、環境への影響が最小限に抑えられていることを実証し、タコ漁業として世界で初めてMSC認証を取得しました。

「世界初の持続可能なタコ漁業として認められたことを、大変うれしく思っています。」

プエルト・デ・ベガの船長
アドルフォ・ガルシア・メンデス氏



そして中国では…

太平洋側では、まったく別の意味を持った「初」の漁業が誕生しました。深圳市華南漁業有限公司(CSFC)が、中国で初めてマグロはえ縄漁業としてMSC認証を取得しました。これは中国全体でも、2つ目の認証漁業となります。

MSCは中国の水産業界と協働し、世界一の人口を誇る中国で持続可能な水産物を広め、意識を高めていこうと取り組んでいます。中国も健全な海洋環境を目標として掲げており、華南漁業有限公司のような企業が先陣を切っているのは頼もしい限りです。

「私たちは今後も中国における持続可能な水産物に関する活動を支援していきます。」

深圳市華南漁業有限公司 董事長
サミュエル・チョウ氏

国の誇り

「ニューファンドランド・ラブラドール州は、地元のマダラ資源をはじめとする水産物の持続可能な認証取得を全面的に支援しています。認証は、長期にわたる水産資源および海洋生態系の健全性の保護、そして地域社会がこれからも繁栄していくための重要な手段なのです。」

ニューファンドランド・ラブラドール州 農林水産養殖大臣
スティーブ・クロッカー氏

カナダのマダラ漁業は、何十年の間豊富な資源を誇っていましたが、1990年代に資源が崩壊したことにより漁業は閉鎖され、漁村社会において人々が大量失業するという深刻な事態に見舞われました。

漁業が壊滅的な打撃を受けたことが、MSC発足のきっかけとなりました。まだ資源が回復しない水域はあるものの、南ニューファンドランドのマダラ漁業は驚くべき回復を見せています。2011年、ニューファンドランド沖の3Ps管理区内のマダラ漁業は、水産業、政府および

NGOの支援の下、大規模な漁業改善プロジェクト(FIP)を開始しました。その3年後にはMSC認証審査に入るまでに回復し、2016年3月に見事認証を取得しました。

カナダ北部のマダラ資源を対象とした第2の漁業改善プロジェクトは、幸先のよいスタートを切りました。こうした取り組みや協力体制が波に乗れば、3Ps管理区内だけでなくカナダの他の水域でもマダラ資源が回復するものと期待されています。

淡水漁業による参加

MSCの対象は、もはや海だけではありません。カナダ、ウォータールー湖のウォールアイとノーザンパイクを対象とする漁業はその適切な管理が認められ、淡水漁業としては西半球初となる認証を取得しました。



国境を越えた協力



「MINSAのサバ漁業の認証は、漁業者と政府機関の国境を越えた協働の賜物です。」

MSCイギリス・アイルランド担当
漁業担当マネージャー
クレア・ペスコッド

ヨーロッパの漁業の間ではこの6年間、「サバ戦争」が話題となっていました。サバ漁業北部持続性同盟(MINSA)が2016年5月に認証を取得したことにより、大きな転換点を迎えました。

2012年、7つあったMSC認証サバ漁業のすべての認証が停止されました。これはサバの分布が北の海域で増加したことにより、科学的に推奨される量を上回る漁獲量が継続してしまったこと、そして資源管理のための国際合意が崩壊してしまったことが原因でした。これ以降、解決策を見出そうと、関係各国の漁業者と政府機関

が努力を重ねてきました。

MINSAの調整役をつとめたイアン・ガット氏によれば、北東大西洋サバ資源を巡る紛争を解決するためにMINSAがとった手段は「まったく前例のない協力体制」によるものでした。MINSAには、沿岸の手釣り漁船から大型の遠洋トロール漁船まで、11カ国*からの700隻を超えるサバ漁船が含まれていますが、すべてが一体となってMSCプログラムに参加し、持続可能な漁業に取り組んでいます。MINSAは詳細な行動計画に従い、更なる管理改善に挑んでいます。



MINSA
11カ国に
またがる

700隻
以上の漁船

三カ国の協働

ヨーロッパ諸国による協力体制の事例はMINSAだけではありません。デンマーク、オランダ、ドイツのブラウンシュリンプ漁業者が認証を取得するため協力体制を築きました。

これにより、ヨーロッパのエビ漁業の80%、北海ブラウンシュリンプの年間水揚げ量の95%を超える漁業が審査に入ったこととなります。



© Guus Schoonewille

「協力体制を築いたことで、責任ある漁業に取り組む決意をサプライチェーンおよび消費者に示すことができます。」

MSCベネルクス担当
プログラムディレクター
ハンス・ニューウェンハイス

*スコットランド、イングランド、北アイルランド、ノルウェー、スウェーデン、オランダ、デンマーク、ドイツ、フランス、アイルランド、リトアニア

カツオ・マグロ グローバルな水産資源

「既に自分たちの手で自分たちのカツオ・マグロ資源を守るべき時期が来ています。次の世代のために、我が国民のために、経済発展のために、カツオ・マグロ資源は不可欠です。」

マーシャル諸島の元資源開発大臣 マットラン・ザッカーラン氏

太平洋での進展

太平洋地域にある8つの島国が加盟するナウル協定加盟国(PNA)はヨーロッパ大陸の約1.4倍の広さを誇る海域を管轄しており、世界のカツオ・マグロ類の1/4がこの海域に生息しています。世界の食糧供給のためにも、各島の経済にとっても、持続可能な資源管理の重要性は計り知れません。

PNAカツオ漁業は2011年に認証を取得しました。これはカツオの素群れを対象とした巻き網漁業です。2016年にはPNAによる素群れのキハダマグロ漁業も認証を取得しました。この漁業によるキハダマグロの年間漁獲量はおよそ14万トンで、PNA水域内で漁獲されるキハダマグロの半分を占めています。

これは資源保護の観点からも朗報であり、自国の資源に対するPNAの自主的な取り組みを加速させるものです。PNAではこれまで長い間、カツオ・マグロ類の水揚げによる経済的恩恵をほとんど享受することがなく、そのまま海外に流れてしまっていました。しかしこの度、PNAは持続可能なカツオ・マグロに対して「パシフィック(Pacific)」という独自のブランドを立ち上げました。Pacificalを通して、MSC認証のカツオ・マグロ加工製品を世界に広め、小売業者及び最終消費者と直接的な関係を結ぼうとしています。

CoC認証を取得する企業が増えれば、より多くのMSC認証マグロが販売されるようになり、PNAに暮らす人々もより安定した持続可能な暮らしを期待できるようになるでしょう。



*2014年国連FAO
**2016年 ISSF

オーストラリア初の認証マグロ漁業

家族経営のウォーカー・シーフード社が、マグロ漁業としてオーストラリア初となるMSC認証を取得しました。認証後、輸出の機会が増え、スイスのスーパーにもマグロを卸すまでになりました。これはMSC「海のエコラベル」がなければ実現し得なかったことです。

拠点：クイーンズランド州、サンシャインコースト

漁業：オーストラリア東部マグロ・カジキ漁業

船団：4隻

従業員：船長6名、乗組員33名

MSC認証魚種：キハダマグロ、ビンナガマグロ、メカジキ

市場：オーストラリア、日本、アメリカ、ヨーロッパ



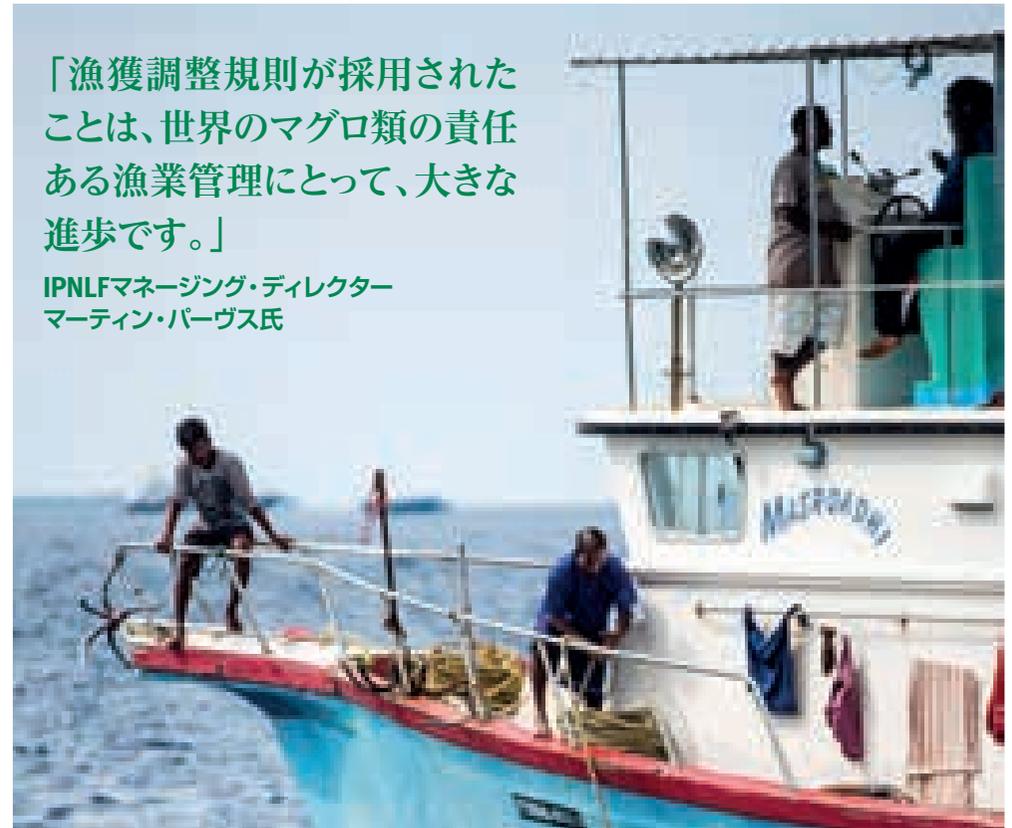
©ウォーカー・シーフード

「以前から自分たちは持続可能な漁業を行っていると思っていましたが、MSC『海のエコラベル』によってそれを証明できます。おかげでこれまでよりも多くの市場に進出できるようになりました。」

ウォーカー・シーフード ハイジ・ウォーカー氏

「漁獲調整規則が採用されたことは、世界のマグロ類の責任ある漁業管理にとって、大きな進歩です。」

IPNLFマネージング・ディレクター
マーティン・パーヴス氏



モルディブの一本釣りカツオ漁業 ©Nice and Serious / MSC

IOTCの画期的な漁獲管理方策

2016年5月、インド洋まぐろ類委員会(IOTC)は現在豊富な資源量を誇るカツオに対し、漁獲管理方策を導入するという画期的な措置を打ち出しました。

これは、一本釣りカツオ漁業として、インド洋初のMSC認証を取得したモルディブからの提案でした。漁獲調整規則の採用は、沿岸漁業・遠洋漁業各国の間に広まる持続可能なマグロ資源に対する強い思いの表れです。モルディブ政府の提案に対する支持を集めるために

率先して動いたのが、国際一本釣り漁業基金(IPNLF)でした。漁業者をはじめ、水産業、小売業、ブランド、NGOの各種団体の代表が数ヶ月にも及び協議に参加しました。協働する意思があったからこそ、このような広範囲にわたる合意形成が可能となったのです。

IOTCの次なる議題は、過剰漁獲されているキハダマグロの回復に向けての行動です。

すべての漁業が 参加できるプログラムに

「MSC認証の取得は私たちにとっての長期的な目標ではありませんが、MSCの枠組みのおかげで漁業改善プロジェクトを始動させました。課題を認識し、どういったデータが不足しているのかを特定することで明確な行動計画を策定し、進捗状況を把握し、報告することができるようになりました。」

ケニヤ水産省 首席漁業担当官 エリザベス・ムエニ氏

小規模漁業や開発途上国の漁業は、食糧保障や人々の暮らし、経済発展にとって極めて重要なため、持続可能な管理が不可欠となります。しかし、そうした漁業の多くは、MSC認証を取得し、拡大する持続可能な水産物市場からの恩恵を得るために必要な資源やデータ、運営システムを有していません。

MSCでは、より多くの漁業が参加しやすくなるようプログラムの改善に取り組んでいます。小規模漁業や開発途上国の漁業が、より環境に配慮した漁業に向けた第一歩を踏み出せるよう、複数のツールや助成制度、研修プログラムも整えました。既存のツールに加え、「MSC認証に移行する漁業(ITM)」を対象とする新たなプログラムも開発しています。これに参加する漁業は、最低限の業績評価指標を満たすことを審査で示し、決めら

れた期間内に着実に改善を実施し、MSCの本審査に入ることが求められます。

漁業改善プロジェクト(FIP)への関心も高まっています。FIPでは様々なステークホルダーが協力して、漁業の環境的課題に対処していきます。MSCはFIPの運営に直接関わることはないものの、FIP行動計画を策定するためのガイドンスやMSC能力向上研修プログラムといった各種ツールによる支援を行っています。またFIPに取り組みパートナーが持続可能な漁業として認証を取得できるよう、可能な限りのサポートを行い、MSC認証への移行プログラムに確実に参加できるよう協力してまいります。

国際漁業サステナビリティ基金

MSCは2015年7月、MSCプログラムへの参加を促すために国際漁業サステナビリティ基金(GFSF)を設立しました。小規模漁業および開発途上国の漁業の支援を目的とした科学調査や、知見と能力向上プロジェクトに対する初回割当額は40万英ポンドで、2年にわけて支給されます。2015年度には33件の申請があり、その中から選ばれた6つのプロジェクトに対して資金が提供されました。

GFSF資金の対象

- マダガスカル(写真) – タコ(ブルー・ベンチャーズ)
- チリ – イチョウガニ(アングド カニ漁業協同組合)
- 中国 – アサリ(WWFジャパン)
- インドネシア – カツオ・マグロ類(インドネシア漁業協同基金)
- スリナム – 複数魚種(WWFギアナ)
- インドネシアとベトナム – カニと二枚貝(WWFコーラル・トライアングル・プログラム)

発展途上国
2015年度

21の漁業
が認証を取得

15
の漁業が審査中

9%
の漁業がMSC
プログラムに参加

地中海プロジェクト

リゾートとして大人気の地中海は、海洋生物の宝庫でもあります。地元経済と地中海での生活スタイルに欠かせないのが漁業ですが、その多くは小規模漁業です。

地中海にはフランスとスペインを合わせて1万人を超える漁業者がいます。しかし数少ないデータから見てくるのは、過剰漁獲の問題です。調査された地中海漁業の88%で過剰漁獲が行われており、海洋生態系はもちろんのこと、漁業をなりわいとしている多くの地域の存続までもが脅かされています。

2015年9月、MSCはWWFと協働で、フラン

スとスペインの100の漁業のマッピングを開始しました。そのうちの14の漁業については、持続可能な漁業のためのMSC規準に照らし合わせた予備審査を行い、課題を洗い出した上で行動計画を策定し、改善を促します。

これがきっかけで、本審査入りを目指す漁業が出てくるのが期待されています。また他の漁業についても、持続可能性への転換を図るための明確な道筋が示されることとなります。

詳しくは project-medfish.com をご覧ください。

世界各地でのMSC認証参加促進のためのプロジェクト

沿岸漁業プロジェクト(イギリス)：Seafish(イギリスの外郭公共団体)と協働で450の漁業のマッピングと予備審査を行い、イギリスの沿岸漁業の持続可能性についてそれぞれにフィードバックを行いました。

西オーストラリア州(オーストラリア)：西オーストラリア州政府は州内50の漁業がMSC認証審査を受けられるよう1450万豪ドルの予算を組み、20年以内にすべての漁業によるMSC認証取得を目標に掲げています。

グループ予備審査(日本)：2015年度、宮城県内の6つの漁業に対し、予備審査を実施しました。2017年3月までに、他のいくつかの地域でも同様の予備審査プロジェクトを行う予定です。

福建省東山(中国)：年間16万トンを超える水揚げ量を誇る中国の重要な漁場において、持続可能な漁業に向けた初の地域プロジェクトを立ち上げました。地域内の漁業に対し本審査に向けた改善を促し、他の地域計画の起爆剤となることを目標にしています。

「このように協力してプロジェクトを進めることは、イギリス沿岸の小規模漁業からはじまるサプライチェーン全体にとって、長期的な利益をもたらすことでしょう。」

Seafish トム・ピッケレル博士

地中海の漁船数



スペイン
2,760
フランス
1,400

地中海の漁業人口



スペイン
>8,300
フランス
>2,300

「MSC規準に則った予備審査を受けることは、地中海の漁業の水産資源を将来に向けて保護するために必要なことを理解する、重要な一歩だと考えています。」

MSCヨーロッパ地域担当ディレクター カミエル・デリッヒ

強固な認証サプライチェーン

「自分たちが食べるものの供給元を知りたいという思いは、消費者の間でますます強くなってきています。MSC『海のエコラベル』は、持続可能性のみならずトレーサビリティにおいても最も信頼できる規準であることが、最新の調査結果によって明らかになりました。これは実に頼もしいことです。」

イギリス ヨーク大学 水産科学研究者 ブライス・ビューカーズ スチュワート博士

21ヵ国での調査によると、日常的にシーフードを食べる消費者の2/3は「購入するシーフードが信頼できる漁業から供給されているという確証が欲しい」と考えています。また、過半数が「包装に表示されている水産物の中身について疑問を持っている」と答えています。トレーサビリティに対する要求が高まる中、MSC「海のエコラベル」は消費者への確実な保証となっています。

MSCラベルの価値を守っていくためには、確実に持続可能な漁業まで遡って追跡できなければなりません。それを可能にするのがCoC認証です。

MSC認証製品は審査を経たという証であり、サプライチェーンのどの過程においても認証製品であることを実証し、追跡することができます。

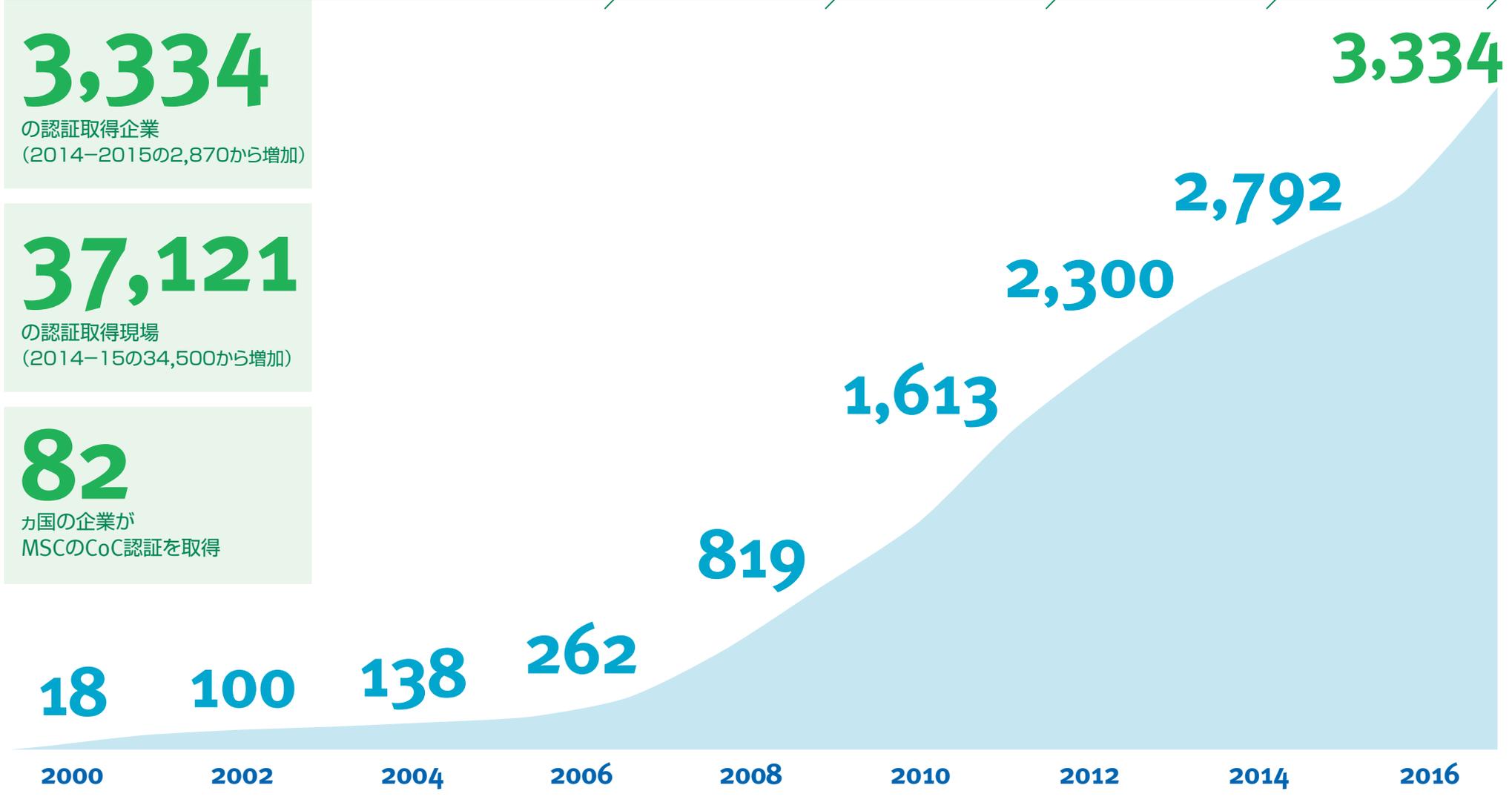
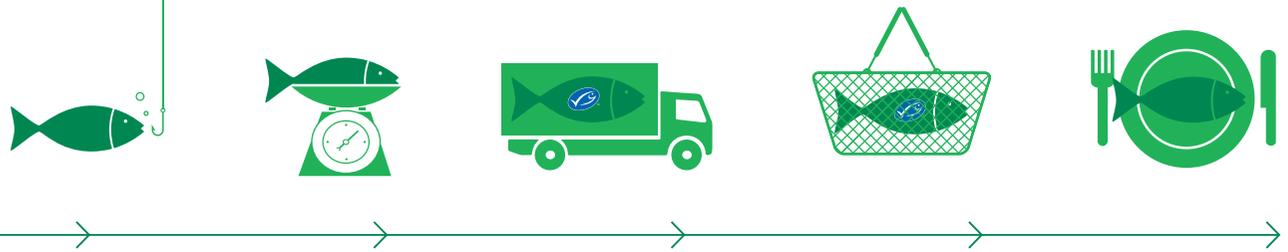
す。MSCのCoC認証を取得した企業は、独立した第三者認証機関による年次監査を受けています。MSCでも定期的にトレースバック等のモニタリング(P22参照)を行うことにより、製品に記載されている内容を保証しています。

2015年にはサプライチェーンのモニタリング活動を強化しました。ヨーロッパと中国でオンライン取引のトレーサビリティツールを試験的に立ち上げ、東南アジアでは、特定の製品のトレースバックおよびサプライチェーン調査を実施しました。

詳しくは msc.org/ocean-to-plate をご覧ください。



MSC CoC認証の拡大



3,334

の認証取得企業
(2014-2015の2,870から増加)

37,121

の認証取得現場
(2014-15の34,500から増加)

82

カ国の企業が
MSCのCoC認証を取得

持続可能性を DNA検査で検証

「MSC認証の取得は、水産物のサプライヤーにとって大変名誉なことです。DNA検査の結果は、トレーサビリティの改善に対する認証企業の努力を証明するだけでなく、MSCのビジョンや目標に対して、認証企業がいかに組織として取り組んでいるかを示しています。」

独立認証機関アコーラ・マリネ マネージング・ディレクター マーティン・ギル氏

MSC認証水産物の、海から食卓に至るまでのトレーサビリティを検証することは必須です。最近のグローバルな調査分析によると、水産加工品の約30%に誤った記述や表示があることがわかります。このため、MSCは警戒を怠ることなく真剣にモニタリングに取り組んでいます。2年毎にMSC認証製品を無作為に抽出し、DNA検査を行っています。水産物は加工処理の段階で色や形や質感が変化し、見た目だけでは元の魚や海洋生物を判別できないことがあります。しかし、遺伝子が変わることはないため、科学的な検査によって種類を判別することができます。

検査プロセス

2015年に行ったDNA検査の結果では、MSC認証製品の99.6%が正しくラベリングされていま

した。唯一の不適合は、アサバカレイと表示されていた製品が、実は同じ認証漁業によるノーザンアサバカレイであったことが判明したケースです。これについて調査を行ったところ、両魚種が非常に近い種のため、識別の際に単純な誤解してしまったことが原因であると判明しました。現在は、再発を防ぐための措置が講じられています。

DNA検査プログラムにはまだ改善の余地があります。外食産業を対象にした無作為検査も始める予定であり、ツナの缶詰についても新たな検査方法を試験的に実施しています。貝類についても更にモニタリングを強化する予定で、誤表示のリスクが高い場合には、原産地を特定する方法の調査も行っています。



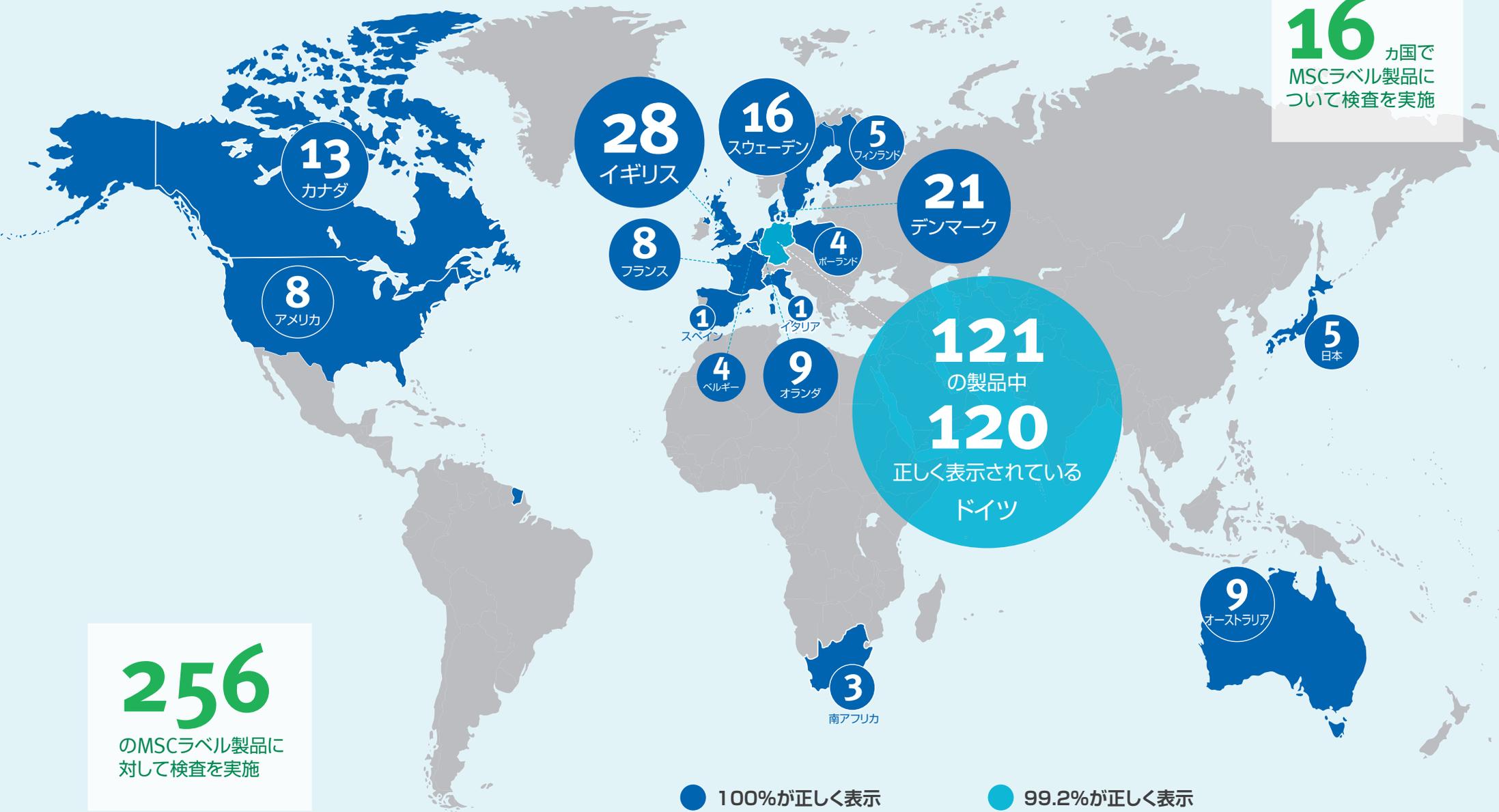
世界に発表

最新のDNA検査結果の発表にあわせて、MSCラベル表示製品と非表示製品のトレーサビリティの違いを比較するマルチチャンネルのグローバルキャンペーンを17の主要マーケットにおいて実施しました。

マクドナルドやイギリスのフィッシュ&チップス店のような外食系パートナーも調査結果の拡散に協力し、ハフィントン・ポスト紙にも掲載されたことで、世界の数百万におよぶ人々に私たちのメッセージが伝えられました。

2015年の検査結果

16 カ国で
MSCラベル製品に
ついて検査を実施



256
のMSCラベル製品に
対して検査を実施

● 100%が正しく表示

● 99.2%が正しく表示

拡大する市場



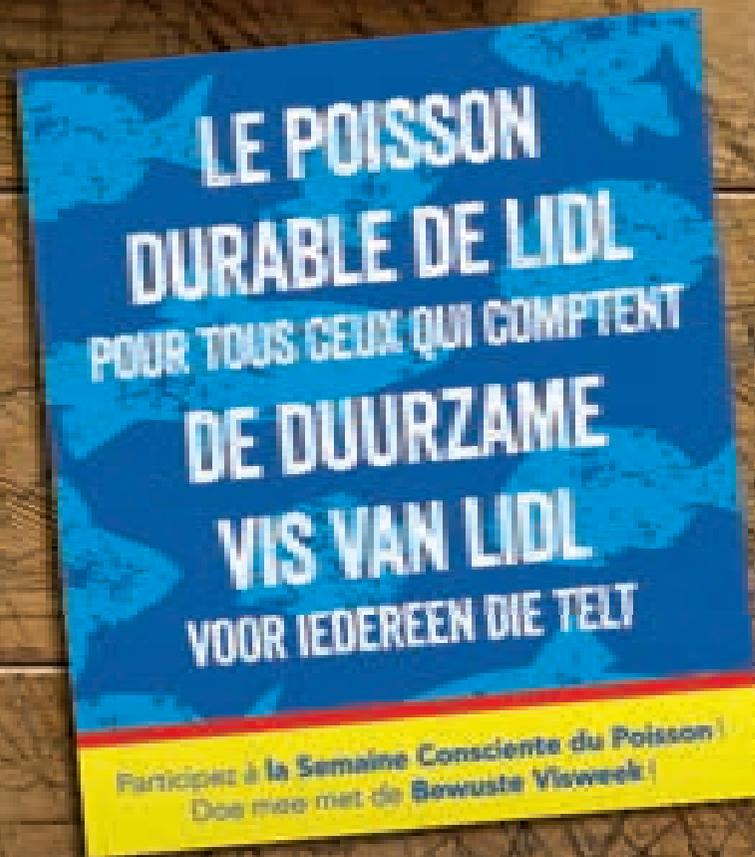
「ドイツのスーパー・リドルは、世界中の責任ある管理が行われている漁業を報奨しています。リドルの取り組みは模範となり、海の生物多様性を守るうえで大変有益です。」

MSCドイツ・オーストリア・スイス担当
コマーシャルマネージャー イネス・ビーデルマン

小売企業の強いコミットメント

持続可能な水産物市場は世界中で拡大を続けており、世界有数の小売企業の多くがこの1年で目覚ましい変革を起こしています。MSCラベル付き製品の販売に対するリドルの取組拡大から、イギリスでクリスマスにカナダ産MSC認証付きオマールロブスターを取扱う“ロブスター・ラッシュ”に至るまで、長期的視野に立った海洋保護は、先見の明のあるブランドにとって最重要課題なのです。

イケアやカルフル、ミグロス、コール、イオンといったMSCの重要なパートナーは、引き続き支援を表明しました。こうした商業パートナーの取り組みは、消費者の持続可能な水産物に対する需要を高めるためには不可欠であり、漁業にMSC認証の取得を促す大きな動機付けとなるのです。



「製品の供給源は、我々にとって大変重要です。持続可能な漁業は、我々の調達方針において不可欠な役割を担っています。今のことだけを考えるのではなく、今後もバラエティに富んだ水産物を確実にお客様に提供できるようにしたいと考えています。現在リドルが取り扱っている水産物のほとんどにMSC『海のエコラベル』が貼られていることを、大変誇りに思います。」

リドル 製品調達ディレクター ヤン・ボック氏



リドルが起こす新しい波

ここ数年、ディスカウントチェーンがスーパーマーケット業界に革命をもたらしてきました。自社ブランドの水産物を持続可能な水産物のみで揃えるというリドルの大胆な計画は、競合企業の戦略に大きな影響を与える可能性があります。

リドルが2015年のクリスマス直前に発表した計画では、2017年からMSCラベル付きの生鮮および冷凍水産物のみを自社ブランドとして常時販売し、2018年までに自社ブランドの養殖水産物はASC認証もしくは有機のみに限定することを表明しました。また、期間限定の自社製品についても、持続可能な水産物への移行を着々と進めています。

持続可能な調達、リドルにとって特に真新しいことではありません。リドルはこの10年間で持続可能性に重きをおく調達方針を進め、ヨーロッパ全土で多種多様なMSC認証製品を販売するまでになりました。昨年はイタリアとマルタの店舗で、自社ブランドにおけるMSC認証製品の種類を20%増やし、デンマーク・ベルギー・オランダでは、持続可能な水産物の大々的なマーケティングを支援しました。イギリスでは昨年、調達する持続可能な水産物の種類を2倍以上に増やしたことから、2016年のMSC最優秀中規模小売企業賞を受賞しました。



©アンディ・アチソン / MSC

Sainsbury's

イギリスのトップは依然としてセインズベリー
イギリスでは依然としてセインズベリーが主導的役割を担っています。過去6年間、セインズベリーは、イギリスのどの小売企業よりも多くのMSC認証製品を販売してします。セインズベリーが取り扱っている天然水産物の76%はMSC認証製品で、種類数は200にものぼり、他のイギリス小売企業の2倍以上となっています。セインズベリーでは、2020年までに天然水産物の100%をMSC認証漁業から調達することを公約として掲げています。

イギリスの小売企業で、MSC認証製品取扱数の第3位はリドル、そして4位は同じくディスカウント・スーパーマーケット・チェーンのアルディです。第2位はウェイトローズとなっています。

「セインズベリーとウェイトローズは、第三者機関によって認証された持続可能な漁業から水産物を調達する取り組みを長年にわたって進めています。リドルとアルディがこれに続くようになり、大変うれしく思います。」

**MSCイギリス・北東大西洋担当
プログラムディレクター
トビー・ミドルトン**

持続可能なごちそうが大人気

イギリスのクリスマスに新たな伝統が生まれました。5英ポンドで買えるオマールロブスターです。

先陣を切ったのは、リドルが100%自社ブランドとして取り扱うMSC認証オマールロブスターです。前年の非認証オマールロブスターよりも1英ポンド安い4.99ポンドという値段で、10月に店頭販売をスタートしました。ライバルのディスカウントチェーン、アルディでも12月にMSC認証オマールロブスターの販売を開始したほか、テスコは同じ漁業で獲れた一回り大きな認証ロブスターを6英ポンドで売り出しました。

持続可能なオマールロブスターは国際的なニュースとなり、MSC「海のエコラベル」を広くPRするのに一役買いました。



リドルのMSC認証オマールロブスター

カンタブリアとの協働

「カンタブリア海のカタクチイワシ漁業者を支援することは、弊社で取り扱うMSC『海のエコラベル』付き製品の種類を増やすと同時に、漁業者の生活の安定と水産資源の確保にも貢献できます。これは双方にとって有益です。」

スイス ミグロスの持続可能な漁業に関する専門家 サンドラ・ヒニ氏

カンタブリア海のカタクチイワシは、グルメな人々に大人気です。銀色に光るスペイン産の小さな魚は大変貴重であり、約3000人の漁業者と60を超える小規模企業を支えています。しかし資源が著しく減少したため、2005年にはEUよりカンタブリア海の漁業者に対して5年間の禁漁が言い渡されました。2010年になると、漁獲割当の削減と管理の改善を条件に、漁業は再開しました。

ミグロスは、2020年までに水産物を100%持続可能な漁業から調達することを公約に掲げており、MSC認証を取得した持続可能なカタクチイワシを探していました。ミグロスの長年のパートナーであるスイスのデ・メンディエータと、その水産物の加工業者であるスペインの有限会社ス

コーレは、ここに認証のチャンスを見出したのです。MSCとともに漁業者と協議し、バスク(漁業者団体OPEGUIとOPESCAVA)およびラレドの船団がヨーロッパのカタクチイワシ漁業として初めてMSC認証取得に取り組み、取得したあかつきにはミグロスが小売業者として最初に販売するという合意に至りました。今やカタクチイワシの資源は豊富な状態にあり、カンタブリア漁業の将来は安泰です。ミグロスも、水産物の100%を持続可能な漁業から調達するという目標を達成することができました。



「カンタブリアのカタクチイワシの品質の高さと持続可能な漁業に取り組む漁業者の努力を、ぜひ世界中に知ってほしいです。」

ギブスコア漁業者組合連合事務局長
ミレン・ガルメンディア氏

カルフルーが開く 新たな航路

「MSCは、漁業者と小売業者のような水産業界のステークホルダーの連携を促し、持続可能な漁業という共通の目標を達成するために取り組んでいます。FROM NORDとカルフルーのパートナーシップはそうした協働の理想的な姿です。」

MSCフランス担当プログラムディレクター エデュアル・ル・パール

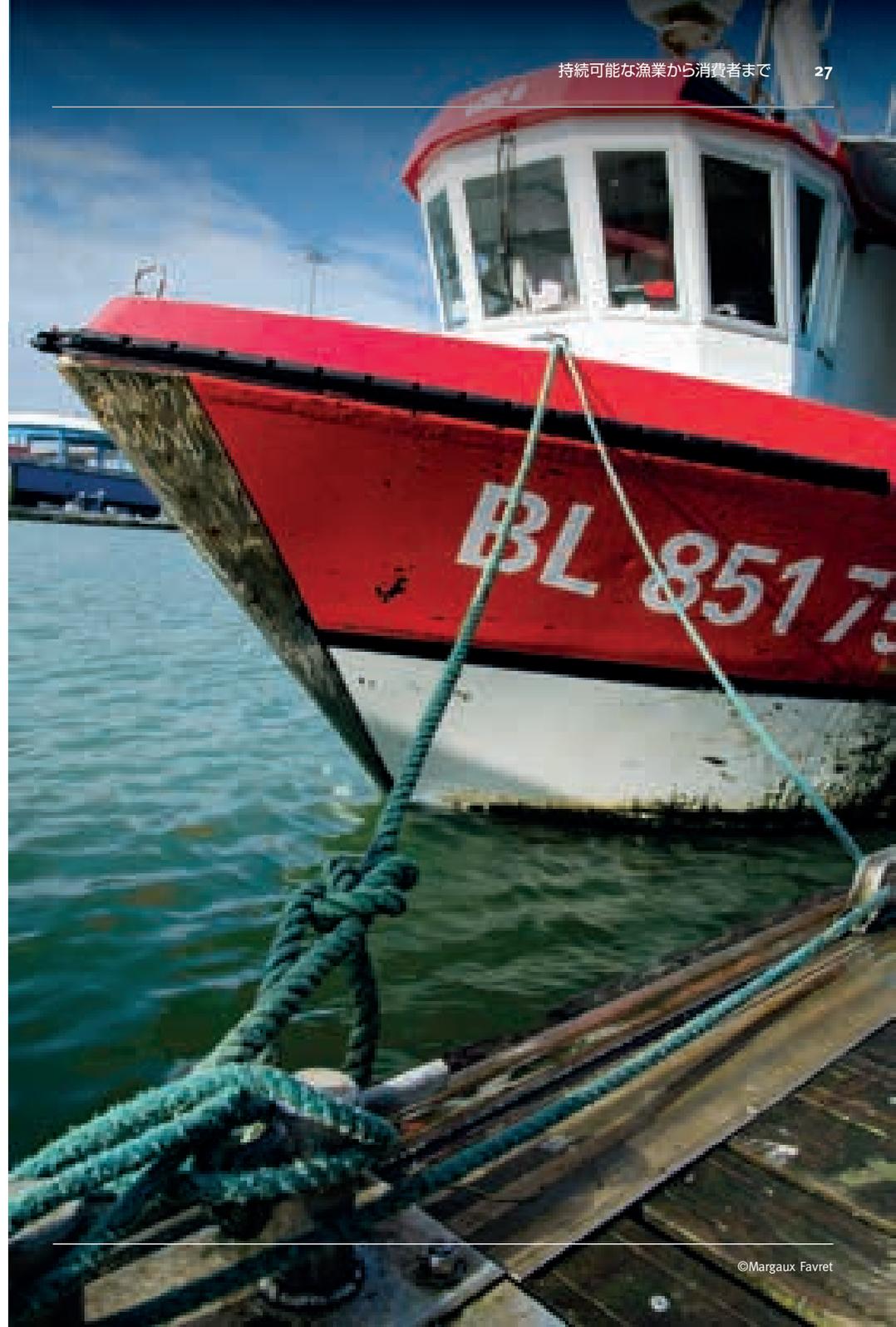
カルフルーは、フランスの小売企業として初めて、持続可能な漁業のための認証審査に資金援助を行い、新しい協働のあり方を提示しました。英仏海峡東部と北海のシタビラメ漁業の持続可能性についての認証審査に際し、2014年に生産者団体のFROM NORDに出資を申し出ました。シタビラメは高値の付く資源であり、ダンケルクからシェルブールまでを含めた5つの漁港を母港とする83隻の漁船によって漁獲されています。カルフルーによるこの画期的な資金提供は、生物多様性の保護に努め、地元の生産者と密接に関わって行こうとするカルフルーグループ全体の取り組みを反映しています。

2016年6月、カルフルーはフランス小売業として初めて、パリ地域のハイパーマーケット33店舗の鮮魚カウンターで、豊富な種類のMSC「海

のエコラベル」付き水産物の販売を始めました。

イタリアのカルフルーも重要な一歩を踏み出しました。エコラベル製品の販売を行うため、MSCとの協議に入ったのです。イタリアはMSCにとってもまだ比較的新しい市場ではありますが、消費者からの関心は高まりを見せています。

カルフルーは持続可能性の推進において、その力を存分に発揮しています。小売企業が持続可能な製品をPRすればするほど、消費者の認識は高まり、持続可能な水産物への需要は増し、そしてMSC認証を取得しようとする漁業が増加するという好循環が実現するのです。小売企業の取り組みのおかげで、消費者は正しい選択をすることができるのです。一連の過程のすべてにカルフルーが関わっているのは、素晴らしいことです。



コールスの 大々的な取り組み

「コールスのような大手小売企業が、持続可能な水産物の調達に責任を持って取り組む公約をしたことで、持続可能な水産物市場への転換が国レベルで動き出しました。」

WWFオーストラリア ジリー・ルーエリン氏

オーストラリアを代表するスーパーマーケット・チェーンのコールスは、デリカカウンターで持続可能な水産物を提供するという、オーストラリアの大規模小売企業としては初めての試みに踏み切りました。MSC認証のバナナエビ、ASC認証の養殖サーモン、加工食品部門では缶詰、そして冷凍食品に至るまで、コールスで買い物をする消費者は、持続可能な製品を選ぶことによって、責任ある漁業を支援できるようになりました。

これは、コールスの数年におよぶ努力、そしてサプライチェーンへの働きかけの集大成といえるものです。消費者は、コールスが調達する責任ある持続可能な水産物(鮮魚、冷凍品、缶詰)を購入できるようになったのです。

責任を持って調達するため、コールスは現実的かつ建設的なアプローチを取っています。コールスの一番の選択肢はMSC認証製品ではあるものの、WWFオーストラリアと認証機関MRAGアジア・パシフィックと協働で、厳格なMSC認証の取得にまで至らない漁業の持続可能性についても検証しています。生産者やその他のステークホルダーに働きかけることで、漁業に改善を促し、認証が可能なレベルにまで漁業の水準を向上させているのです。



1億を超える MSC認証ツナ缶

「私たちは、調達方針だけにとどまらず、消費者の意識向上と持続可能な漁業を根付かせることにも取り組んでいます。海洋資源の持続可能性こそが規範なのであり、それ以外の選択肢は認められません。」

ジョン・ウェスト・オーストラリア エグゼクティブ・コマーシャル・ディレクター
グレアム・ダグデイル氏

「これはオーストラリアの水産市場にとって画期的な一歩です。海洋資源の健全性を維持するために、ジョン・ウェスト・オーストラリアは素晴らしいリーダーシップを発揮してくれました。」

MSCアジア太平洋地域担当ディレクター パトリック・カレオ

今年は持続可能な水産物を推進する取り組みが多く、中でもジョン・ウェスト・オーストラリアによるツナ缶サプライチェーンの全面的な見直しが一とき話題を呼びました。これまでにない規模のMSC認証ツナ缶が市場に出回るようになったからです。

ジョン・ウェストとMSC、WWFの4年にわたる努力と協働の結果、ジョン・ウェストのツナ缶で使用されているマグロの97%がMSC認証PNAマグロ漁業から調達されるようになったのです。

マグロはオーストラリア国民のタンパク源のトップ5に入っており、ジョン・ウェストのツナ缶は人気ブランドの一つであるため、この取り組みが与える影響は多大です。市場におけるMSC認証ツナ缶の数は1億を超え、オーストラリアで市販されるツナ缶の43%に持続可能なマグロが使われるようになります。ジョン・ウェストの取り組みは、オーストラリアの消費者の意識転換を図るだけでなく、太平洋全域での漁業改善を促し、太平洋の島国がより持続可能な経済基盤を構築するための力となるでしょう。



フォーカス:アジア 太平洋地域と中国

10億

にのぼるアジア太平洋地域の人々にとって、魚は主要なタンパク源*

世界の
80%

以上の漁業者と養殖場が、アジア太平洋地域で操業(2008年)*

100万トン超の
年間水揚げ量を誇る

18カ国のうち
11カ国は
アジア太平洋地域*

魚への依存度は、アジア太平洋地域がおそらく世界一だと思われます。水揚げ量、消費量、そして漁業人口においても世界のトップを占めており、数千年におよぶ食文化の歴史の中で実に多くの魚種が利用されてきました。

当然ながら、トップは中国です。年間水揚げ量は1400万トン近くと、他の国々の約3倍です。世界の水産物需要は、2025年までに更に5000万トン増え、世界人口も2050年には90億人台になることが予想されている中、持続可能な水産物市場への転換は、人道的課題にもなっています。その問題がどこよりも切実なのが、アジア太平洋地域です。

幸いなことに、既に商業セクターが動き出しており、この1年でいくつかの非常に前向きな進展がありました。中国の巨大なEコマースセクターへの参入から、日本初のMSC認証レストラン、福井県敦賀市のトータリー・シーロール・クラブの開店まで、アジアにおいても持続可能な水産物市場への転換が始まりました。2015~2016年には、中国と日本のMSC事務所の規模を拡大し、来年はますます多忙になるものと予想されます。

日本のイオングループの約80店舗が2015年のキャンペーン「未来をつなげる 海の恵み」に参加したところ、持続可能な水産物の売上げが

1,357%

増加しました。





アリババによる拡販

中国のネット通販最大手のアリババは、今や世界一の売上げを誇る小売企業となりました。MSCはそのアリババと1年前から協働し、持続可能な水産物とMSCの活動理念の推進に努めてまいりました。そして2016年1月には、アリババ初の持続可能な水産物キャンペーンが実施されました。

これにより、世界最大のネット通販市場においても、MSC「海のエコラベル」をアピールできるようになりました。アリババの消費者向け市場であるTモールは、2017年までに数千万人も中国の消費者がオンラインで水産物を購入するようになる予測しています。Tモール内にMSC製品専用サイトを開設する計画も進められており、アリババでは持続可能な水産物の調達先を開拓しているところです。



2016年に中国の水産業幹部数 百名を対象に行ったアンケートの結果、中国水産業界で5番目に大きな影響力を持つ人物として選ばれたのが、MSC中国担当プログラムディレクター、アン・ヤンでした。

1位は、中国の食卓の多くにカナダ産ロブスターを並べることに貢献した、アトランティック・カナダ・ビジネスネットワークの中国首席代表、アイヴィー・ワン氏でした。カナダ産ロブスターの97%は、MSC「海のエコラベル」が付いています。

持続可能な水産物を提供

「私たちは、責任をもって水産物を調達する必要があります。大切な資源を育ててくれる海を守るために、できる限りのことをしなければなりません。」

ブリット&チップス 共同経営者 ポール・デバイエ氏

フードサービス業界も、持続可能な水産物の調達・供給に積極的に取り組むようになってきました。

持続可能な水産物への取り組みは、昨年も留まることなく進展を続けています。イギリスでは、セインズベリーとウェイトローズのカフェテリアが認証を取得したことにより、持続可能な水産物を提供するレストランがイギリス各地で新たに数百件誕生しました。これは既に認証を取得していた60店舗のフィッシュ&チップス店を上回る快挙です。

この気運は他の国々でも高まっています。重要な水産物市場であるイタリアと日本でも、初のMSC認証レストランが誕生しました。2015年には、モントリオールのフィッシュ&チップス店の人気投票で1位に選ばれたブリット&チップスが、カ

ナダのレストランとして初めてMSC認証を取得しました。ブリット&チップスは2016年に3店舗目を開店する予定です。

同じくカナダでは、フードサービス・グループのアラマークがMSCのCoC認証を取得し、16の大学キャンパスのカフェやレストランで、MSC「海のエコラベル」付きの水産物を提供できるようになりました。メニューなどの販促物にエコラベルを表示することで、消費者の意識が更に高まるものと期待されています。アラマークはCoCグループ認証を取得しているため、MSC規準を満たす他のキャンパスや企業もグループに参加することができます。また、国境を越えたアメリカでは、USフーズが全国規模のフードサービス企業としては初となるMSC認証を取得し、全国67の施設でMSC認証シーフードを提供できるようになりました。



「MSC『海のエコラベル』をメニューに表示することで、世界的な問題に対する消費者の意識向上に貢献できることを誇りに思っています。」

アラマーク社
グローバル・サプライチェーン&調達担当SVP
スコット・バーンハート氏

アラマークが2016年にカナダの各キャンパスで提供予定の持続可能な水産物は

13.5 トン





「大変うれしく、光栄に思います。他の多くのシェフの模範になればと願っています。私はMSCのミッションに強く共感し、持続可能な水産物の認知度を高める必要性を痛感しています。私たちみんなが責任を果さなくてはなりません!」

2016年5月にMSC認証を取得したミシュラン1つ星レストラン
アル・ポルティッチョ口84 シェフ ファブリジオ・フェラーリ氏(写真中央)

*右はMSCアンバサダー

マクドナルドの取り組み

マクドナルドは5年前、ヨーロッパの全店舗で人気商品「フィレオフィッシュ」の原料調達先をMSC認証漁業に限定するという公約を掲げ、注目を集めました。その直後にアメリカ、カナダ、ブラジルのマクドナルドでも同様の取り組みがスタートしました。マクドナルドはその後、持続可能な原料調達を更に推し進め、2016年にはスペインの全国規模の外食チェーンとして初めて、MSC認証カツオを使ったメニューの提供を開始しました。490を超える店舗では、太平洋の漁業から調達されたカツオが使われています。

「マクドナルドの取り組みによって、何百万人ものスペインの消費者が持続可能なカツオを味わい、そして太平洋の島国の数千人もの漁業者とその家族の生活を支えることができるようになったのです。」

Pacifical マネージング・ディレクター
ヘンク・ブルス氏

ヒルトンの新たな高み

2015年11月、ヒルトン・ワールドワイドは世界的なホテルチェーンとして初めて、MSC「海のエコラベル」付きマダラの提供をヨーロッパでスタートさせました。イギリス・オランダ・ベルギーにある41の施設は、既にMSC CoC認証を取得しており、この3カ国でヒルトンが所有もしくは経営・リースしているとは別に41の施設でも、2017年までに認証を取得する準備が進められています。ヒルトングループは以前から、責任ある持続可能な原料調達に取り組んでおり、2015年3月にはヒルトン・シンガポールがアジアのホテルとして初めてCoC認証を取得し、2014年4月には世界のヒルトン系列のレストランやフード&ビバレッジでのフカヒレの提供を禁止しています。ヒルトンのこうし

た取り組みは、より責任があり、そしてより持続可能な供給に対する同社の幅広い戦略を強固にするものです。

「シーフードは多くのお客様から喜ばれています。将来にわたってシーフードを提供し続けていくためには、調達方針の中に、持続可能な漁業の活動を加えることが必須なのです。」

ヒルトン・ワールドワイド CSR担当VP
マキシム・ヴァーストレート氏

消費者への働きかけ



「消費者の行動に影響を与え、持続可能性に対する取り組みへの信頼を育んでいくことは、持続可能な水産物への需要を高めるための鍵となります。MSCは消費者に働きかけて、最良の選択ができるよう尽力していきます。」

MSCグローバル・コミュニケーション&マーケティング
ディレクター サラ・ブレイデン

ポーランドのクリスマスで注目され、受賞に

MSCポーランドは、ソーシャルメディアを駆使したキャンペーンで2016年ゴールド・フィン広告賞および2016年国際ビジネス大賞の広報賞・銅メダル(別称スティービー・アワード)を受賞するという快挙を達成しました。

ゴールド・フィン賞は2つのキャンペーンに対して贈られました。1つは6月8日の世界海洋デーにあわせてポーランドの有名人に持続可能な漁業をPRしてもらうもので、写真撮影会の実施やフェイスブックのグラフィックの有効活用、そしてワルシャワの地下鉄内のポスターを使ったキャンペーン等が展開されました。

もう1つは、年末にかけて展開された「MSCのニシンでクリスマスを」というキャンペーンです。長さ10メートルのテーブルにパンやピクルス、そして200キロものMSC認証ニシンを使ったクリスマス料理を並べ、ワルシャワ市民を招待しました。会場には記念写真を撮るブース等のアミューズメントも用意されました。このキャンペーンは、70名以上のジャーナリストとブロガーに取り上げられ、大切なメッセージがこめられたクリスマスイベントとして、多くのメディアを通して伝えられました。こうしたソーシャルメディアを利用した素晴らしいキャンペーンで、スティービー・アワードを受賞したのです。



ベルギー初の「Think Fish(魚について考える)ウィーク」

2015年9月、ベルギーでは初となる、小売企業とレストランの協働による一大キャンペーン、Think Fish(魚について考える)ウィークが開催されました。MSC・ASC・WWFベルギーが企画したこの取り組みにおいて、参加企業は日頃の競合状態に関係なく、ともに消費者に責任ある選択を勧め、MSCとASCラベル付き製品の認知度向上のためのメッセージを共有しました。

ASC認証製品の購入量が2013年から2014年にかけて185%上昇したベルギーでは、持続可能性に対する意識が確実に高まっています。市場の60%を超えるサプライヤーの参加は、非常に喜ばしいことです。小売企業のアルバート・ハイン・アルディ・カルフル・デルハーゼ・リドル・スパーに加え、レストランチェーンのマクドナルドとクイックが参加したことにより、メッセージをより広く確実に伝えることができました。

ベルギーの著名なシェフ17名も参加して、MSC認証水産物を使った食欲をそそるオリジナルレシピをマルチメディアのウェブサイトにアップしました。



「正しい選択をし、美味しい魚をこれからもずっと食べられるようにしよう」

Think Fishウィークキャンペーンのコピー

イタリアでの取り組みを主導

MSC認証を取得したブランドであるオーシャン47(Ocean47)はテレビのキャンペーンを通じて、持続可能な水産物に対する自らの真摯な取り組みをイタリアのステークホルダーに伝えました。このキャンペーンは、放映頻度の高いテレビコマーシャルと、主要な一般向け雑誌8誌において1ページすべてを使用した広告が主体となり、またソーシャルメディアを通じて、積極的に持続可能な水産物をアピールしました。その結果、Ocean47の製品は地元イタリアの15の卸売業者で取り扱われるようになり、売上げの倍増も期待されています。MSCとOcean47に対す

る業界および消費者の認知度も、格段に増加しました。



©NEO Estudio Gráfico

#MiMarSuMar

2016年3月、MSCはスペインのハイパーマーケット・アルカンポとともに#MiMarSuMar(私の海・彼らの海)という大キャンペーンを展開しました。アルカンポは持続可能な漁業を推進しており、2012年以来MSC認証製品の取扱い品数を増やしています。

キャンペーンでは、店頭での広告展開、ソーシャル・ネットワークの活用、そして有名シェフによる水産物試食会を行われました。アルカンポとMSCが協同で開催したワークショップには、5,000人を超える子どもたち

が参加しました。

#MiMarSuMarにより、持続可能な漁業に取り組む漁業者にスポットライトを当てることができました。ヨーロッパのMSC認証ヘイク漁業、グルーポ・リーガル(GRUPO REGAL)の漁業者であるダニエル・カラセードさん自身の経験を通して、海の持続可能性の大切さ、そして海から食卓まですべてがどのようにつながっているのかを、消費者は知ることができました。

選ぼう 「海のエコラベル」



「9年前に世界で販売されていた『海のエコラベル』付きの製品は、わずか1,000品目でした。現在、『海のエコラベル』の付いた製品の数は20,000品目を超えるまでになりました。これは画期的な成果であり、世界の漁業ならびに小売業パートナーの果敢な取り組みが認められた結果です。」

MSCグローバル・コマーシャル・ディレクター ニコラ・ギシュー

2016年2月、記念すべき20,000品目となるMSC「海のエコラベル」付き製品がドイツで発売されました。ドイツは持続可能な水産物市場を牽引しており、4,000を超える認証製品が販売されています。

その記念すべき製品は、持続可能な水産物を100%使用したネット(Netto)の冷凍シーフードパエリア、ラス・カレンタ・パエリア(Las Cuarenta Paella)。この商品の原料は世界各国から調達され、アラスカとロシアのスケソウダラ、デンマークのムラサキイガイ、そしてスリナムのエビが含まれています。これは、MSC「海のエコラベル」が使

用された革新的で新しい商品の事例です。



MSC「海のエコラベル」の付いた製品は

96
カ国で販売

MSC「海のエコラベル」の付いた魚種は

108 種

サプリメント市場も拡大

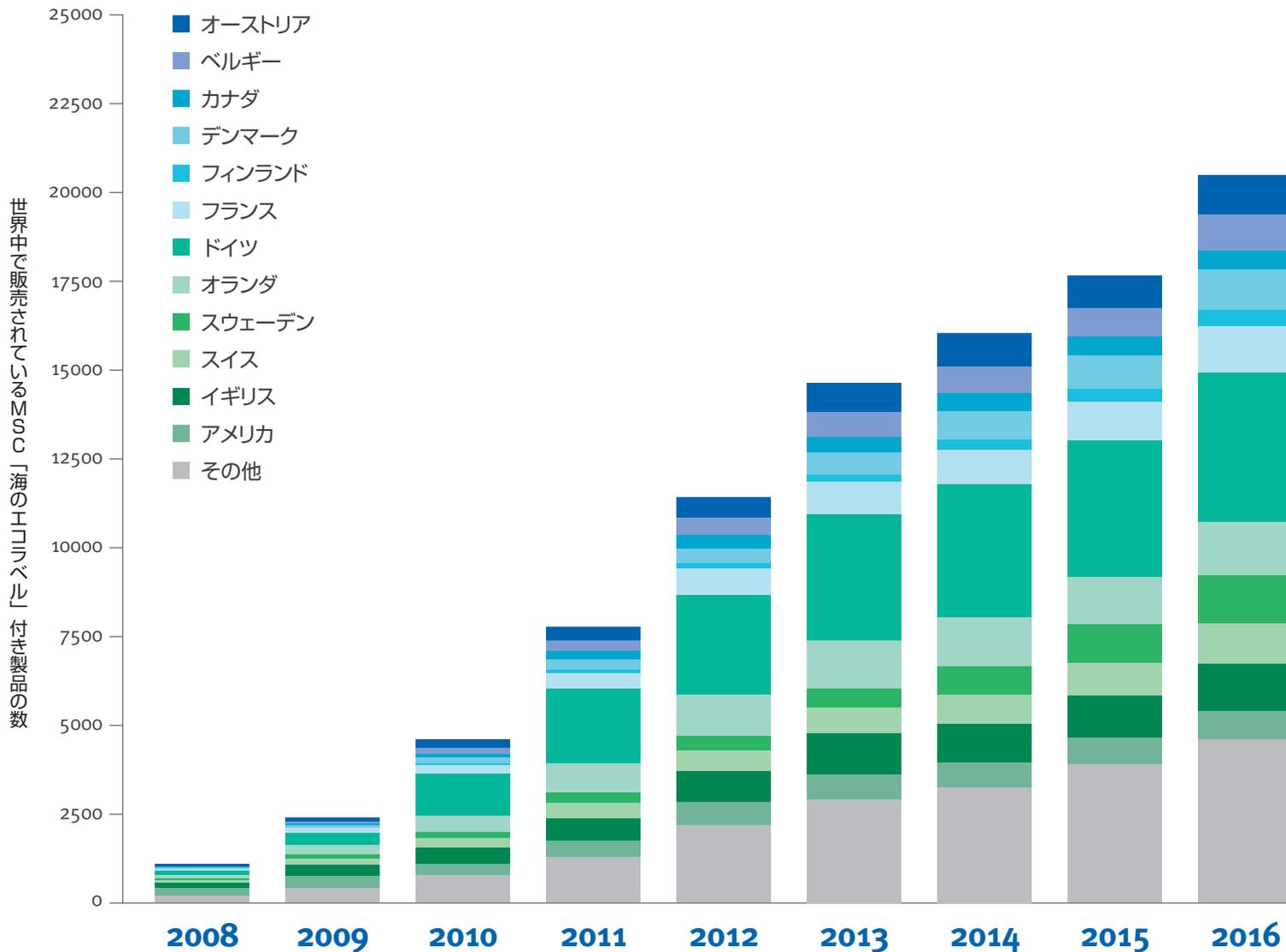
オメガ3を豊富に含むフィッシュ・オイルの需要の伸びによって、MSC認証サプリ市場も急成長を遂げています。

フィッシュ・オイル市場は、MSCにとって大いに期待できる市場です。この5年間で、MSC「海のエコラベル」の付いたフィッシュ・オイル製品は16品目から380品目に

急増しました。重量換算では675%の伸びを示しています。2010年度には16トンでしたが、2015年度には124トンを超えるまでになりました。

アメリカ市場での伸びが特に目ざましく、MSC認証サプリ市場の総重量の85%超を占めています。

MSC「海のエコラベル」付き製品の数



MSC「海のエコラベル」付き製品数

20,492*

(2015年3月31日の17,200品目より増加)

消費者によって購入されたMSC「海のエコラベル」付き水産物の量

659,399トン

(2014年度の620,000トンより増加)

消費者が購入したMSC認証水産物の推定総額

46億米ドル**

*各国において購入できる製品数を基に、世界全体の製品数を合計(SKU)。

**消費者向けMSC「海のエコラベル」付き製品の小売販売額。卸売価格に売値入率の世界平均である40%を加算して計算。

消費者の意識を把握

「水産物を購入する際と、他のカテゴリーの製品を購入する際との消費者行動の違いが、今回の調査結果の分析から明らかになりました。信頼できるブランドが比較的少ないカテゴリーにおいては、持続可能性およびトレーサビリティに関する第三者による認証は、消費者をより良い選択に導きます。」

リサーチ会社 グローブスキャン ディレクター キャロライン・ホーム氏

水産物の購入に関する、これまでにない大規模な世界的調査の結果、消費者は価格やブランドよりも持続可能性を重視しているということが明らかになりました。

MSCの依頼により、グローブスキャンが実施した調査では、世界21か国の16,000人以上の消費者の意見が分析されました。その結果、3/4近く(72%)の消費者は海を守るためには持続可能な水産物のみを購入すべきだと考えており、半数以上(54%)は多少値段が高くとも持続可能な水産物を購入する意思があることが明らかになりました。また、消費者の2/3(68%)は持続可能なものであることの証明は、第三者機関によって実証

されるべきであると回答しており、MSCのCoC認証についてもその重要性が確認される結果となりました。

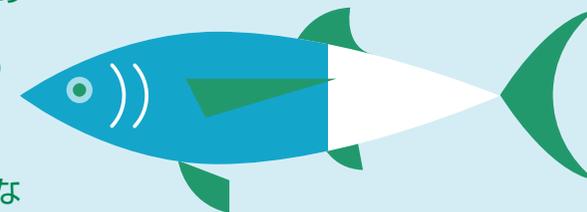
MSC「海のエコラベル」の認知度は、13%のカナダから71%のスイスまで、調査が行われた国によって差がありました。ラベルに対する評価は高く、その存在を認知している消費者の86%はラベルを信頼しており、MSCの取り組みによる影響を肯定的に捉えていると答えました。この結果を受け、MSCはこれからの1年、パートナーおよびさまざまな業界とともに、消費者のMSC「海のエコラベル」に対する認知度のさらなる向上に取り組めます。

消費者調査の結果

水産物を購入する消費者の

72%

が、海を守るために持続可能な漁業から供給された水産物のみを購入すべきと考えている



水産物を購入する消費者の

68%

は、より持続可能な水産物を選択すべきであると考えている

全消費者のうち

37%

がMSC「海のエコラベル」を見たことがあると回答



調査は2016年1月から2月にかけて実施され、本人あるいは家族の誰かがこの2ヶ月の間に水産物を購入したことがあると回答した16,876人を対象に行われました。1か国につき最低600人が調査対象となり、各国の標準サンプルが得られるよう、データは、性別、年齢、地域、教育レベルにより加重処理を行いました。

回答者の
68%が、
持続可能性に関する
ブランドやスーパーマーケットの
主張は第三者機関によって
実証されるべきであると
考えている

MSC「海のエコラベル」を
見たことがあると答えた消費者の

86%は
ラベルを信頼し、
MSCの取り組みを肯定的に
捉えている



回答者の
62%は、
MSC「海のエコラベル」を
表示しているブランドを
より信用・信頼する
と答えている

MSC「海のエコラベル」を見
たことがあると答えた人の

64%が、
知人にも
紹介すると思うと回答



消費者の声

MSCは市場調査組織のウォッチ・ミー・シンク (Watch Me Think) を通じて、オーストラリア、ドイツ、日本、アメリカ、イギリスの消費者が、水産物を購入する様子や水産物について語っているところを自撮りしてもらいました。水産物に関する課題や、MSC「海のエコラベル」についてのコメントをいくつかご紹介しましょう。

「家族の好物である魚が、いつの日か食べられなくなるとするのは大問題」

松原さん、日本



「私は環境活動家ではありませんが、これ以上ひどくはしたくないと思います」

ジェンさん、オーストラリア



「いつもMSC『海のエコラベル』が付いた製品を選びます」

クレアさん、オーストラリア



「購入している水産物にMSC『海のエコラベル』が付いていて、どこから供給されているのかわかると安心します」

ジェニーさん、アメリカ



「『海のエコラベル』は環境、製品、魚にとって良いことばかり…」

ダレンさん、イギリス



「子どもたち世代のために、魚を残してあげることができると思うとうれしい」

リンさん、アメリカ



「製品の持続可能性は、扱っている企業が主張しているだけではなく、第三者機関によっても実証されています」

ウルリケさん、ドイツ



財源と資金援助

「郵便番号くじは、豊富な水産資源と生命に満ちあふれた海を、将来の世代に残していくことは、大変重要であると考えています。くじを購入くださっている250万人の方々からの寄付を通じて、これからも継続してMSCの取り組みを支援できることを嬉しく思います。」

オランダ郵便番号くじ チャリティー部門ディレクター マルグリット・シュルデー氏

長期的な成果をあげるには、たゆまぬ努力と信念がなくてはなりません。資金を提供してくださっている方々はこのことを理解し、MSCのビジョンを共有してくださっています。こうした寛大なご支援により、世界中の多くのパートナーやステークホルダーと協働しながら、本報告書に記されている成果をあげることができたのです。資金提供があつてこそ、厳格な科学的根拠と技術面での機能を維持し、規準を更に改善し、既存のMSC認証漁業だけでなく新たな漁業プログラムへの参加を促すとともに、水産市場における支援の強化と維持に向けた取り組みを行うことができます。

特に、デビッド&ルーシーパカード財団、オランダ郵便番号くじ、そしてウォルトン・ファミリー財団からの継続的なサポートは、MSCのミッションを遂行するうえで、なくてはならないものです。

できるだけ多くの漁業がMSC認証に進むことができるよう、特定のプロジェクトに対する資金提供もいただいています。それを基盤として、昨年はブラジル・中国・フランス・日本・メキシコ・モザンビーク・スペイン等、幅広い国や地域で活動を展開することができました。こうした資金提供により、MSCのプログラムへの参加促進に向けた取り組みを世界中で行うことができます。

オランダ郵便番号くじ 当選者のみなさまへ

昨年もオランダ郵便番号くじの寄付先としてMSCを選んでいただけたことを、大変うれしく思います。2011年以来、オランダ郵便番号くじから毎年50万ユーロの寄付をいただいております。パートナーシップとしての評価により、2016年1月からの5年間で250万ユーロの資金提供をいただけることになりました。

資金援助

MSCは、以下の組織のご支援に感謝いたします。

アメリカの財団

Herbert W. Hoover Foundation
National Fish and Wildlife Foundation
David and Lucile Packard Foundation
Remmer Family Foundation
Skoll Foundation
Triad Foundation
Walton Family Foundation

イギリスの信託基金および財団

AG Leventis Foundation
Cecil Pilkington Charitable Trust
Swire Charitable Trust

その他のヨーロッパの財団

Adessium Foundation(オランダ)
BalticSea2020(スウェーデン)
Daniel and Nina Carasso
Fondation(フランス)
DEG(ドイツ投資開発公社)
Dutch Postcode Lottery(オランダ)
GIZ(ドイツ国際協力公社)
Oak Foundation(スイス)

公的機関

European Fisheries Fund(フィンランド)

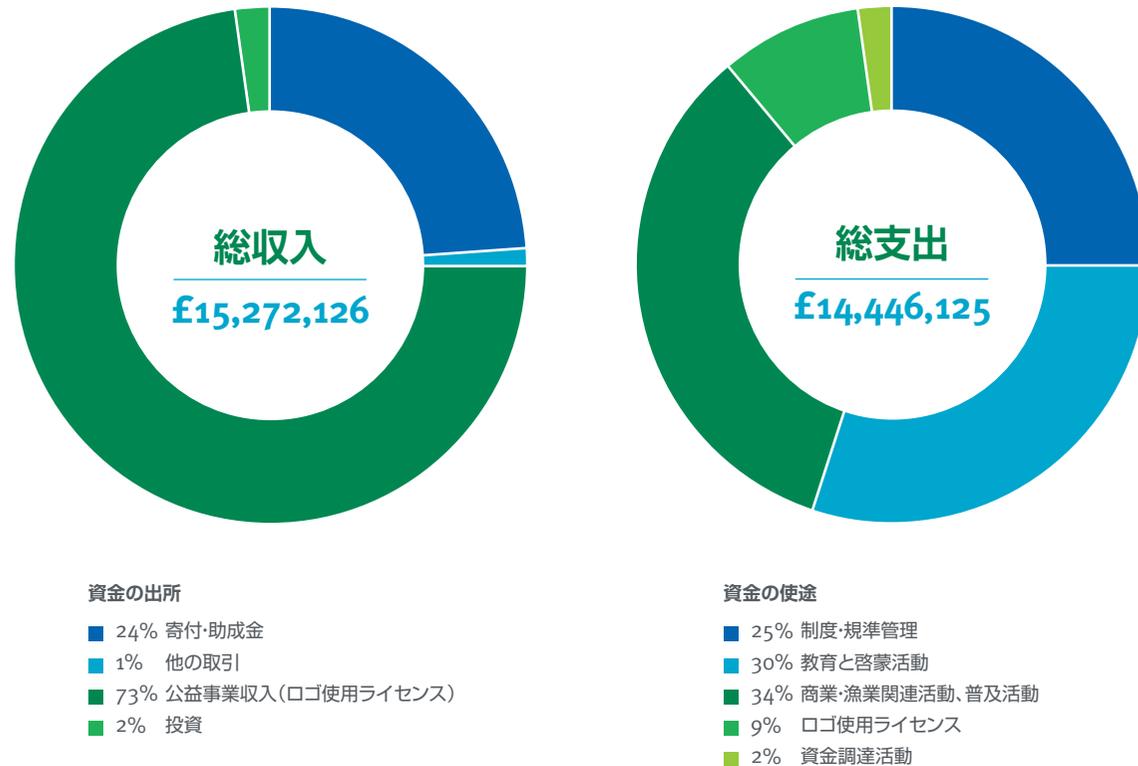
民間企業

ロイヤル・カリビアン・クルーズ社Ocean Fund
海魁水産(中国)

NGO

Resources Legacy Fund / Sustainable
Fisheries Fund
WWFスウェーデン

決算報告 2015年度



決算報告書摘要についての 評議員会の報告

決算報告書摘要は、評議員会が承認しその代表者が2016年7月26日に署名した、法定評議員年次報告書および決算書から抜粋したものである。2016年7月26日に、監査法人Crowe Clark Whitehill LLPにより、問題なしとの報告がなされた全決算報告書が、法定評議員年次報告書および決算書に関して発行された。

監査人の見解では、決算報告書摘要は2016年3月31日に終了した会計年度の全決算報告書と整合するとの旨を、監査人は評議員会に確言した。この決算報告書摘要は、当該公益団体の財務状況を完全に把握するための情報を網羅しているとは限らない。法定評議員報告書・決算報告書・監査人の報告書の全文は、www.msc.org/about-us/finances もしくはMSC(海洋管理協議会)の財務責任者より入手可能で、住所は Marine Stewardship Council, 1 Snow Hill, London, EC1A 2DH である。

評議員会代表

MSC評議員会

会長 ウェルナー・キーン

2016年7月26日

収入もしくは支出欄に記載されていない損益については £78,916の損失となりました。

2016年3月31日の資金 : £21,234,196

2015年3月31日の資金 : £20,487,111

ガバナンス

「高い信頼性とトレーサビリティはMSCの大きな強みであり、それを維持するために誠心誠意取り組んでいかななくてはなりません。」

海から食卓までの道程の間には、持続可能な水産物を提供するために、惜しみない努力が続いている大勢の人たちがいます。その人たちの思いに触れると、大いに勇気づけられるのです。

長い道程の終点、つまり最終消費者への働きかけは、MSCの活動の中でも重要なものです。ヨーロッパではMSC認証水産物を選ぶ人たちが着実に増え続けており、これによって世界中で持続可能な漁業への転換が推進されています。大規模小売企業やレストランの取り組みによって、MSC「海のエコラベル」の認知度が大いに高まったこともあり、アメリカでも認証水産物に対する需要が高まっています。アジアの、特に都市部においても持続可能性を意識する消費者が増えています。MSCはこうした理解を育み、新興経済国の消費者が持続可能な水産物を積極的に選択できるようにするという、重要な役割を果たさ

なければなりません。そのためには消費者の関心や行動を理解することが必須であり、MSC評議会にはそうした分野に専門性を有する人々も必ず入っていただくようになっています。

もちろん消費者だけではなく、サプライチェーンの他のリンクも同じように重要です。MSCのCoC認証を取得するということは、MSCプログラムの高い信頼性とトレーサビリティを誇る企業であることの証です。この高い信頼性とトレーサビリティはMSCの大きな強みであり、それを維持するために誠心誠意取り組んでいかななくてはなりません。小売企業と消費者のサポート、そしてサプライチェーンにおけるパートナーの取り組みが、水産資源・海洋生態系・そして他の種への影響を最小限におさえながら漁獲を行う努力を重ねている、何千もの持続可能な漁業者を支える基盤となっているのです。

しかし、MSCのことをほとんど知らない何十万人もの漁業者が、そして何億人もの消費者が存在していることも忘れてはなりません。開発途上国の沿岸地域で暮らす多くの人々にとって、魚は生きていくうえで重要な食糧源です。気候の変動により、そうした人々の食糧保障がますます脅かされるようになってきています。そうした中、途上国の小規模漁業に働きかけ、持続可能な方向へ転換しようとしている漁業と協働していく術を見出すことが、重要な課題です。

MSCが正しい決断ができるよう支えてくださる多くの熱意ある人たちの専門性をもってすれば、途上国においても、MSCプログラムを効果的に拡大していけるものと、私は確信しています。



MSC評議会を代表して、組織の効果的な運営を支えてくださっているステークホルダー協議会と技術諮問委員会のメンバーの方々に深く感謝を申し上げます。そしてリーダーシップを発揮してくれているMSCのマネジメントと、海から食卓までの長い道程を持続可能なものにするために取り組んでいるすべてのスタッフに、感謝の意を表します。

MSC評議会
会長 ウェルナー・キーン

2015年度 MSC評議会

MSC評議会は、MSCを管理する組織です。技術諮問委員会とステークホルダー協議会の助言を得ながら、MSCの全体的方向性を定め、進捗状況をモニターし、MSCが確実にその目的を遂行できるようにしています。

Werner Kiene博士 – 会長

Jeff Davis氏 – MSC評議会 議長

Chris Zimmermann博士 – 技術諮問委員会
議長

Peter Trott氏 – ステークホルダー協議会 共同
議長

Christine Penney氏 – ステークホルダー協議
会共同議長

Monique Barbut氏

Lynne Hale氏

野村一郎氏

David Mureithi氏

Eric Barratt氏

Jean-Jacques Maguire氏

Paul Uys氏 – 2015年8月就任

Felix Ratheb氏 – 2015年12月就任

Jim Leape氏 – 2015年12月就任

評議委員会を去る方々に感謝の意を表します

Hervé Gomichon氏、Judith Batchelar氏
Leiv Grønnevet氏、Luis Bourillón博士
Stephen Groff氏、Bill Rylance氏

新たに就任された方々に歓迎の意を表します

Paul Uys氏、Felix Ratheb氏、Jim Leape氏

2015年度 技術諮問委員会メンバー

MSC技術諮問委員会(TAB)は、認証・認定方法の策定や漁業認証の進捗状況の確認など、MSC規準に関する技術的、科学的事項についてMSC評議委員会に助言します。

Christopher Zimmermann博士(ドイツ) – 会長

Keith Sainsbury博士(オーストラリア)

Tony Smith博士(オーストラリア)

Adam Swan氏(イギリス)

Lucia Mayer Massaroth氏(ドイツ)

Stephen Parry氏(イギリス)

Tim Essington博士(アメリカ)

Victor Restrepo博士(アメリカ)

Alex Olsen氏(デンマーク)

K Sunil Mohamed博士(インド)

Simon Jennings博士(イギリス)

Juan Carlos Seijo博士(メキシコ)

Edith Lam氏(オーストラリア)

Michèle Stark氏(スイス)

技術諮問委員会を去る方々に感謝の意を表します

Amadou Tall博士(コートジボワール)

新たに就任された方々に歓迎の意を表します

Edith Lam氏、Michèle Stark氏

2015年度 MSCステークホルダー協議会

MSCステークホルダー協議会は、MSC評議員会に対し、多様な視点・地域・関心から、MSCの運営に関する助言、指導や提案を行います。メンバーは公益および商業／社会経済の2つの部門にわかれています。

公益部門

Peter Trott氏 共同議長 – FishListic
 Eyiwunmi Falaye教授 – University of Ibadan(ナイジェリア)
 Nancy Gitonga氏 – FishAfrica(ケニア)
 Martin Hall博士 – Inter-American Tropical Tuna Commission
 Eddie Hegerl氏 – Marine Ecosystem Policy Advisors P/L(オーストラリア)
 Patricia Majluff博士 – Oceana(ペルー)
 Dierk Peters博士 – (WWF/ユニリーバ)
 Alfred Schumm氏 – (WWF)
 Yorgos Stratoudakis博士 – IPIMAR(ポルトガル)
 Abdul Ghofar博士 – University of Diponegoro (インドネシア)
 Alasdair Harris博士 – Blue Ventures(マダガスカル)
 Meghan Jeans氏 – New England Aquarium(アメリカ)

Rory Crawford氏 – Birdlife International/RSPB(イギリス)
 Patrick McConney博士 – University of West Indies(バルバドス)
 Yvonne Sadovy教授 – University of Hong Kong(香港)
 石村学志博士 – 岩手大学(日本)
 Jennifer Kemmerly氏 – Monterey Bay Aquarium(アメリカ)
 Moises Mug氏 – Fish for the Next Generation/Costa Rican Sport Fishing Foundation(コスタリカ)
 Marco Quesada博士 – Conservation International(コスタリカ)
 Frédéric le Manach博士 – Bloom Association(フランス)

商業／社会経済部門

Christine Penney氏 共同議長 – Clearwater Seafoods(カナダ)
 Christina Burrige氏 – BC Seafood Alliance(カナダ)
 Jim Gilmore氏 – At-sea Processors Association(アメリカ)
 John Goodlad博士 – Shetland Catch
 Annie Jarrett氏 – Pro-Fish Pty Ltd, Australia and Australian fishing industry
 Jens Peter Klausen氏 – J.P. Klausen & Co. A/S(デンマーク)
 Guy Leyland氏 – Western Australia Fishing Industry Council Inc
 Mike Mitchell氏 – Youngs Bluecrest(イギリス)
 Simon Rilatt氏 – Espersen
 Libby Woodhatch氏 – Seafood Scotland(イギリス)
 Eduardo Gonzalez-Lemmi氏 – San Arawa
 Ivan Lopez氏 – Pesquera Ancora SL(スペイン)

George Clement氏 – Deepwater Group(ニュージーランド)
 Stefanie Moreland氏 – Trident Seafoods(アメリカ)
 Johann Augustyn氏 – South African Deep Sea Trawling Industry Association(南アフリカ)
 Jonathan Jacobsen氏 – Danish Fishermen's Association(デンマーク)

協議会を去る方々に感謝の意を表します

Luis Bourillón博士、Guillermo Cañete氏、Peter Dill氏、David Graham氏、Morten Jensen氏、Niels Wichmann氏、Margaret Wittenberg氏、John van Amerongen氏

新たに就任された方々に歓迎の意を表します

Jennifer Kemmerly氏、Moises Mug氏、Marco Quesada博士、Frédéric le Manach博士、George Clement氏、Stefanie Moreland氏、Johann Augustyn氏、Jonathan Jacobsen氏

海洋管理協議会インターナショナル(MSCI)評議会

海洋管理協議会インターナショナル(MSCI)評議会は、MSC「海のエコラベル」使用許諾および料金体系を監督します。

ジェフ・デービス氏 – MSCI 評議会議長
 ウェルナー・キーン博士 – 評議員会会長
 ルパート・ハウズ – MSC最高責任者

評議会を去る方々に感謝の意を表します。

ビル・ライランス氏

リチャード・ブラッドリー氏を悼んで

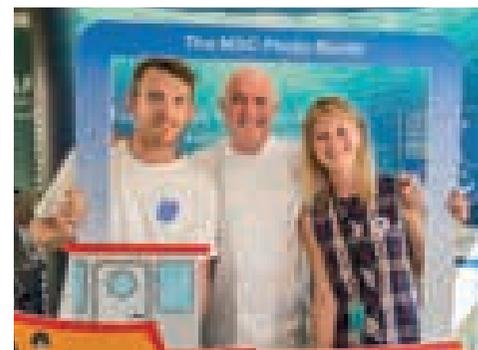


長年MSC技術諮問委員会のメンバーとしてご尽力くださったリチャード・ブラッドリー氏が、2015年11月に逝去されました。氏は、2008年5月に技術諮問委員会のメンバーに就任して以来、MSCプログラムの発展のために大きく貢献してくださいました。認証、監査、サプライチェーン・システムに関するブラッドリー氏の知識は比類なきものでした。氏のご冥福をお祈りいたします。

MSCのスタッフ全員に感謝の意を表します

最後になりましたが、MSCのビジョンを実現するために懸命に取り組んでいる世界の18の事務所のスタッフ全員に心から感謝します。

動画：MSCで活躍するスタッフたち
www.msc.org/team



MSC本部
ヨーロッパ・中東・アフリカ地域事務所

Marine House
1 Snow Hill,
London EC1A 2DH

info@msc.org
Tel: + 44 (0) 20 7246 8900
Fax: + 44 (0) 20 7246 8901

Registered Charity number: 1066806
Registered Company number: 3322023

MSCアメリカ地域事務所

1255 23rd Street NW
Suite 275
Washington, DC 20037
USA

americainfo@msc.org
Tel: +1 202 793 3284

Non profit status: 501 (C) (3)
Employer Identification number: 91-2018427

MSCアジア太平洋地域事務所

6/202 Nicholson Parade,
Cronulla
NSW 2230
Australia

apinfo@msc.org
Tel: +61 (0)2 9527 6883

Non profit status: Registered with ACNC
Registered Company number:
ABN: 69 517 984 605, ACN: 102 397 839

地域事務所と管轄地域

北京 – 中国
ベルリン – ドイツ・スイス・オーストリア・ポーランド
ケープタウン – 南部アフリカ
コペンハーゲン – デンマーク
ハーグ – オランダ・ベルギー・ルクセンブルグ
マドリッド – スペイン・ポルトガル

ミラノ – イタリア
パリ – フランス
レイキャビク – アイスランド
サンチャゴ – チリ
シアトル – 米国
シンガポール – 東南アジア・香港

ストックホルム – スカンジナビア・バルト海
東京 – 日本
トロント – カナダ

その他の活動地域

カンクン – メキシコ
ヘルシンキ – フィンランド
モスクワ – ロシア
サルバドール – ブラジル
ソウル – 韓国
ワルシャワ – ポーランド

デザイン: Forster Communications 画像の著作権は特に明記されていない限り、MSCが有しています。

本報告書の内容は特に明記されていない限り、2016年3月31日時点の正確なデータに基づくものです。会計年度は2015年4月1日から2016年3月31日です。



QRコードをスキャンすると、2015年度MSC年次報告書の英語版デジタルバージョンがご覧いただけます。

詳細はこちらをご覧ください

msc.org/annualreport
japan@msc.org



@MSCecolabel



/MSCJapan



/marine-stewardship-council

© Marine Stewardship Council 2016